

7. 他大学科目の履修（愛知学長懇話会単位互換事業）

1. 愛知学長懇話会
単位互換事業
- 愛知学長懇話会単位互換事業は、愛知県内すべての4年制大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。
- 愛知県の大学に在学するメリットの一つとして、ぜひ活用してください。
受講料は、包括協定に基づき「無料」です。
(ただし、科目によっては、実験・実習等に必要な実費が必要な場合があります。)
2. 出願資格
- 本協定加盟大学の学生は、愛知学長懇話会ホームページ (<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>) に記載された科目の受講が可能ですが、それぞれが定める「出願資格」「履修条件」を満たしていることが必要です。所属する大学においても、履修できる科目や単位認定の可能な科目について独自の設定をする場合があるので、これらの条件等についても、ガイダンスや窓口においてあらかじめ確認する必要があります。
3. 出願手続
- 4月上旬に「愛知学長懇話会単位互換事業」に関するオリエンテーションを開催して説明を行います。オリエンテーション日程等は、別途ジャーナルや、掲示でお知らせします。
- 【出願方法】
- 前期開講科目は4月・後期開講科目は4月または9月に履修登録を行います。
 - 愛知学長懇話会ホームページ (<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>) を参照して、所定の「単位互換履修生（特別聴講生）」出願票を、1科目につき1枚記入して、所属する大学の窓口へ申し込みます。
 - 所定の手続きを経て提出された出願票のみが、科目開設大学に受理され、受講者の選考を行います。
4. 履修手続
- 出願票を受理した科目開設大学は、募集定員や出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考を行う場合があります。
- 受講の可否は、4月末ごろに所属大学を通じて通知されます。
- 科目開設大学によっては、独自の手続きが必要な場合もありますので、その場合は、それぞれの大学の指示に従ってください。実験・実習費等の納入が必要な場合は、受講が決定してから科目開設大学の指示に従ってください。
5. 仮受講票
- 出願した科目の受講可否が通知される前に、その授業が開始される場合、その期間中は「仮受講」が可能です。仮受講期間中は、出願票のコピーを携帯し、仮の受講票とすることができます。

6. 履修期間中
- 1) 履修手続きを完了した学生は、科目開設大学における「単位互換履修生」または「特別聴講生」となり、それぞれの大学において定められた範囲内のサービス等を受けることができます。
 - 2) 科目開設大学によっては、単位互換履修生（特別聴講生）の身分証明書を発行します。
 - 3) 休講等にかかる連絡は、原則として科目開設大学において掲示等で案内されるほか、学生所属大学への通知によって行われます。
 - 4) 受講科目を履修し、科目に定められた方法による試験等に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
7. その他の注意事項
- 1) それぞれの科目に「履修条件」や「募集定員」等があり、出願にあたっては科目ごとの諸条件をよく理解してから申し込むようにしてください。
 - 2) 科目開設大学へのアクセスについても考慮し、所属大学での時間割とあわせて無理のない履修計画をたててください。履修登録したにもかかわらず、通学条件等の理由で途中から受講を放棄しなければならないケースも予想されます。
 - 3) 卒業年次の学生は、自分の卒業所要単位修得状況や見込みにも注意し、単位互換科目の履修および単位修得の可否に影響されないよう準備が重要です。
 - 4) 科目開設大学の学年暦にもよく目を通し、履修・試験・単位認定に関わる諸条件（日程を含む。）を十分理解するよう心がけてください。
 - 5) 履修許可された後（授業期間の途中も含む）の、科目の受講の取り止めは原則としてできません。やむを得ず科目の受講を取りやめなければならない状況になった場合、速やかに教務課または日進キャンパス事務課教務係まで申し出てください。

第2部

履修ガイド

1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<大学の方針>

椋山女学園大学では、その教育理念「人間になろう」、「椋山女学園大学の目的」、「ディプロマ・ポリシー」等の具現化を期し、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成・実施します。

1. 開講する授業科目は、全学共通科目「人間論」、教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目等とします。
2. 教養教育科目と専門教育科目を学士課程教育の核として捉え、両科目をバランス良く配列します。
3. 教養教育科目を全学共通化するとともに、専門教育科目等を精選し、学生の学びが基礎から応用へと発展的に進むように配列します。
4. 身に付いた知識・技術等を統合し、集大成するために卒業論文又は卒業研究等を課します。
5. 初年次から卒業まで、学生が目的、意欲的に学べるように、各学年の履修ガイダンスをきめ細かく実施します。また、いつでもどこでも必要な支援が得られるよう学修支援体制を整備します。
6. シラバスについては、そのコンテンツに「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「何ができるようになるか」という学習成果を加えるとともに、教室外の学習時間の確保や成績評価の基準についてもその内容を明示します。
7. キャリア教育を全学化し、学生の職業的・社会的自立と就業力の育成を図ります。

<学部・学科の方針>

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
生活科学部	生活科学部は、実験・実習を重視した実学としてのカリキュラム編成・実施を基本方針としています。4年次には、総仕上げとしての卒業研究を全員が遂行できるよう、充実した指導を行います。
管理栄養学科	<p>管理栄養学科は、管理栄養士資格をベースとした高度な知識と技術、崇高な人格を備えた職業人及び教育・研究者を養成することを目標とします。専門講義科目及び実験・実習の充実に配慮し、時代が求める教育への柔軟な対応と、より高い目標を掲げ、教育効果を検証しつつ卒業研究に反映させています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「教養科目」を主に1、2年次に配置し、管理栄養士国家試験に関わる専門9分野を「専門教育科目」に網羅する。 2. 「講義」、「実習・実験」の順にカリキュラムを配し、知識と技術の修得を効率化するとともに、情報の収集とまとめ方、プレゼンテーション力及びコミュニケーション力の育成に努め、「臨地実習」では管理栄養士としての実践力をつける。 3. 3年次に「専門演習」を履修し、4年次での「卒業研究」の充実を図り、研究テーマに関わる情報収集と知識の修得、研究手法と科学的考察を通じ、論文作成力などを養う。 4. 管理栄養士に必要な知識と技術の総復習と横断的な知識及び応用力強化のため、4年次に「栄養総合演習」を配置する。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
生活環境 デザイン学科	<p>生活環境デザイン学科は、アパレルメディア、インテリア・プロダクト及び建築・住居の3分野から教育課程を構成します。そして、3分野を専門的にも横断的にも学べる自由なシステムとすることによって、生活環境に関する基礎的素養を磨きつつ、各分野の専門知識と技術及び未知のものを開拓する思考力を身につけることができるカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活環境に関する基礎科目、各分野の専門知識と技術の修得に関する科目、関連する各種資格取得に必要な科目などを網羅し、専門教育科目として開設する。 2. 専門知識と技術の修得に欠かせない実験、実習及び演習科目においては、チームティーチングや少人数教育を重視し、実施する。 3. 実験、実習及び演習科目と座学（講義科目）とが密接に結びつき、教育効果を高め合うことができるカリキュラムを編成・実施する。 4. 3年次後期には生活環境ゼミナール、4年次には卒業研究を置き、研究テーマに関わる情報収集と知識修得、研究手法と科学的考察を通じ、時代が求める課題に即した卒業研究（論文・設計・制作・企画のいずれかの形式）を完遂できるよう指導する。

2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

＜大学の方針＞

椋山女学園大学では、本学に4年以上在学して所定の単位を修得し、かつ次のような能力を身に付けた人に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 基礎体力及び健全なところとからだ
2. 文化、社会、自然等に関する基礎的な知識・理解
3. コミュニケーション・スキル、数量的スキル、問題解決能力等の汎用的技能
4. 自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等の態度・志向性
5. 上記の1～4を基盤として涵養される情操、創造力、批判的思考力、実践力等からなる人間として善く生きる力

＜学部・学科の方針＞

学部・学科名	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
生活科学部	生活科学部は、日常の生活に欠かせない生活の科学、すなわち、衣・食・住に関わる知識と技術を修得し、当該分野における卒業研究を成し遂げた人に対して学位を授与します。
管理栄養学科	<p>管理栄養学科は、管理栄養士資格修得を基盤としています。疾病と栄養分野、食育と健康分野、あるいは食品産業分野において活躍できる人材養成を目指す専門科目を履修し、当該国家試験受験資格要件を満たした人に学位を授与します。</p> <p>卒業生に求める主な学士力は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養と人間性を持って、様々なライフステージの人に接することが出来る。 2. 「食と健康」に関連した分野で、必要な知識と技術を持った管理栄養士となりうる。 3. 地域や集団、食品産業や医療・福祉現場などで、食と健康に関する問題に責任感を持って対処出来る。
生活環境デザイン学科	<p>生活環境デザイン学科は、人間を取り巻く衣環境から都市環境までを含む生活環境を、生活者・消費者の視点から科学的に探求する素養とともに、それを具体的なデザインとして提案・実践することができる基本知識と技術を身につけた人に学士の学位を授与します。</p> <p>卒業生に求める主な学士力は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養と人間性を持って、生活環境の向上に貢献できる。 2. 生活環境を、生活者・消費者の視点から科学的に探求することができる。 3. アパレルメディア、インテリア・プロダクト及び建築・住居のいずれかの分野に関する専門知識と技術を身につけ、それを具体的なデザインとして提案・実践することができる。

授業科目学年配当表

卒業に必要な単位数（平成25年度入学生）

	学 科	管理栄養学科	生活環境 デザイン学科
	全学共通科目「人間論」	2単位必修	
教 養 教 育 科 目	領域1 「思想と表現」	領域6を含めたうちから6単位以上選択履修	
	領域2 「歴史と社会」		
	領域3 「自然と科学技術」	2単位以上選択履修	
	領域4 「数理と情報」	必修を含め2単位以上選択履修	
	領域5 「言語とコミュニケーション」	必修を含め4単位以上選択履修	
	領域6 「健康運動とスポーツ」	領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修	
	領域7 「教養演習等」	—	2単位必修
		上記（領域1～領域7）から	26単位
	学部共通教育科目	0単位	
	専門教育科目	98単位	82単位
	（自由選択）*	0単位	14単位
	卒業に必要な単位数の合計	126単位	

注）*印は、教養教育科目、学部共通教育科目、専門教育科目、第16条に規定する安全教育に関する科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、生活環境デザイン学科にあつては8単位を上限として自由選択の単位とする。

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○			領域6を含めたうちから6単位以上選択履修	
		文学		2	○				
		芸術		2	○				
		心理		2	○				
		言語		2	○				
		人類学		2	○				
	領域2 歴史と社会	歴史		2	○				2単位以上選択履修
		法		2	○				
		日本国憲法		2	○				
		経済		2	○				
		社会		2	○				
		地理		2	○				
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○			必修を含め2単位以上選択履修	
		化学の世界		2	○				
		生命の科学		2	○				
		地球の科学		2	○				
	領域4 数理と情報	数理の世界		2	○			必修を含め2単位以上選択履修	
		コンピュータと情報	必修	2	○				
		情報化社会		2	○				
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語1)	必修	1	○			必修を含め4単位以上選択履修	
		外国語(英語2)	必修	1	○				
		外国語(英語3)	必修	1	○				
		外国語(英語4)	必修	1	○				
		外国語(ドイツ語1)		1	○				
		外国語(ドイツ語2)		1	○				
		外国語(フランス語1)		1	○				
外国語(フランス語2)			1	○					
外国語(中国語1)			1	○					
外国語(中国語2)		1	○						
領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○			領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修		

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
管理栄養学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目

(注) 食品学及び栄養学は管理栄養学科単位認定科目にならない

専門教育科目

学科		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
管理栄養学科	専門基礎分野	社会・健康と環境	公衆衛生学Ⅰ	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学Ⅱ	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学実習	1		○			栄養士必修	
			社会福祉概論	2	○				栄養士必修	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			解剖生理学実習	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			疾病の成り立ち	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			臨床医学概論	2		○				栄養士必修
			臨床検査実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
		食へ物と健康	微生物学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			微生物学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			運動生理学	2		○				栄養士必修
			食品学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
	食品学Ⅱ		2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	食品学実験Ⅰ		1	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	食品学実験Ⅱ		1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	食品学実習		1					○	栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			栄養学実験	1			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
		応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修
			応用栄養学Ⅱ	2			○			栄養士必修
			応用栄養学Ⅲ	2			○			栄養士必修
			応用栄養学実習	1				○		栄養士必修
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		○				栄養士必修
			栄養教育論Ⅱ	2		○				栄養士必修
			栄養カウンセリング論	2			○			栄養士必修
			栄養教育論実習Ⅰ	1		○				栄養士必修
			栄養教育論実習Ⅱ	1			○			栄養士必修
		臨床栄養学	臨床栄養学	2			○			栄養士必修
			栄養アセスメント論	2		○				栄養士必修
			臨床検査学	2			○			栄養士必修
			栄養療法学	2				○		栄養士必修
			臨床栄養学実習Ⅰ	1			○			栄養士必修
		公衆栄養学	臨床栄養学実習Ⅱ	1			○			栄養士必修
			公衆栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
	公衆栄養学Ⅱ		2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	給食経営管理論	公衆栄養学実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		給食経営管理論Ⅰ	2	○					栄養士必修	
		給食経営管理論Ⅱ	2		○				栄養士必修	
	総合演習	給食経営管理実習	1		○				栄養士必修	
		栄養総合演習	2					○	栄養士必修	
臨地実習	栄養実習事前・事後演習	1				○		栄養士必修		
	給食運営管理臨地実習	1				○		栄養士必修		
	臨床栄養学臨地実習	1				○		栄養士必修		
		公衆栄養学臨地実習		3			○	栄養士必修		

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	学科基礎	有機化学の基礎	2	○				食品衛生管理者・監視員必修	
		食生活と環境	2		○				
	学科共通分野	専門関連	食品産業論	2			○		食品衛生管理者・監視員必修
			食育と健康	2	○				
			食品分析学	2	○				
			調理科学	2	○				
			食品安全学	2			○		
			食品機能学	2		○			食品衛生管理者・監視員選択科目
			食品プロセス科学	2			○		
			基礎栄養学展開	2		○			
			薬と栄養	2			○		
			スポーツと栄養	2		○			
			学校栄養教育論	2				○	
			学校栄養指導法	2				○	
			演習基礎	栄養情報処理演習		1	○		
	統計解析入門演習			1	○				
	入門ゼミナール	必修		1	○				
	専門演習	専門演習	必修	1			○		
	卒業研究	卒業研究	必修	6				○	

- (注) 1. 食品学Ⅱには、食品加工学を含む
 2. 食品学実習には、食品加工学実習を含む
 3. 給食経営管理論Ⅰには、給食実務論を含む
 4. 給食運営管理臨地実習の1単位は、「給食の運営」に係る校外実習を含む
 5. 給食経営管理実習は、給食経営管理論Ⅰ、Ⅱの順に単位取得した後でなければ履修できない
 6. 卒業研究は、専門演習の単位を修得していないと履修できない
 7. 卒業研究は、その履修が他の授業に支障をきたすとみなされる場合には、履修できない
 8. 卒業研究では、研究指導が通常の授業時間割外で行われることもある

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
生活環境デザイン学科	領域1 思想と表現	哲学		2		○		領域6を含めたうちから6単位以上選択履修	
		文学		2		○			
		芸術		2	○				
		心理		2		○			
		言語		2		○			
	人類学		2		○				
	領域2 歴史と社会	歴史		2		○			領域6を含めたうちから6単位以上選択履修
		法		2		○			
		日本国憲法		2		○			
		経済		2		○			
		社会		2		○			
		地理		2		○			
	領域3 自然と科学技術	教育		2		○		2単位以上選択履修	
		物理の世界		2	○				
		化学の世界		2	○				
		生命の科学		2	○				
	領域4 数理と情報	地球の科学		2	○			必修を含め2単位以上選択履修	
		数理の世界A		2	○				
		数理の世界B		2	○				
		コンピュータと情報	必修	2	○				
	領域5 言語とコミュニケーション	情報化社会		2	○			必修を含め4単位以上選択履修	
		外国語(英語1)	必修	1	○				
		外国語(英語2)	必修	1	○				
		外国語(英語3)	必修	1	○				
		外国語(英語4)	必修	1	○				
		外国語(ドイツ語1)		1	○				
		外国語(ドイツ語2)		1	○				
		外国語(フランス語1)		1	○				
外国語(フランス語2)			1	○					
外国語(中国語1)			1	○					
外国語(中国語2)		1	○						
領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○			領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修		
領域7 教養演習等	ファーストイヤーゼミ ※	必修	2	○			2単位必修		

※通年

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目

(注) 被服学、被服製作(実習を含む。)及び住居学(製図を含む。)は生活環境デザイン学科単位認定科目にならない

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	学科共通科目	生活環境デザイン	必修	2	○			
		生活環境デザイン演習		1	○			
		人間と行動		2	○			
		身体と人間工学		2	○			
		環境と生理		2	○			
		環境心理学		2	○			
		色彩と造形		2	○			
		感性デザイン論		2			○	
		生活環境と設備		2		○		
		生活環境材料学		2	○			
		社会調査法		2			○	
		マーケティング論		2			○	
		消費生活論		2			○	
		デッサン		1	○			
		生活環境ゼミナール	必修	1			○	
		生活環境特別実習Ⅰ	必修	1		○		
		生活環境特別実習Ⅱ		1			○	
		生活環境特別実習Ⅲ		1		○	○	○
生活環境デザイン学科	インテリア・プロダクト分野及び建築・住居分野共通科目	繊維材料学		2		○		
		染色加工学		2		○		
		クラフト演習(編み・織り・陶芸)		1			○	
		インテリア素材論		2		○		
		デザイン演習Ⅲ(テキスタイル)		1			○	
		感性デザイン実習		1			○	
		空間計画基礎論		2	○			
		住宅計画		2		○		
		建築法規		2			○	
		福祉環境論		2		○		
生活環境デザイン学科	インテリア・プロダクト分野及び建築・住居分野共通科目	西洋建築史		2		○		
		日本建築史		2		○		
		インテリア史		2			○	
		建築一般架構		2	○			
		建築材料		2		○		
		骨組の力学		2		○		
		居住環境学Ⅰ		2	○			
		居住環境学Ⅱ		2		○		
		建築設備学		2		○		
		基礎製図		2	○			
		デザイン演習Ⅰ(造形基礎)		1	○			
		建築・インテリア実習Ⅰ		2	○			
		建築・インテリア実習Ⅱ		2		○		
		デザイン演習Ⅱ(パース)		1	○			
		骨組の力学演習		1		○		
		デザイン演習Ⅳ(パラエティー)		1				○
		色彩計画・照明計画		2			○	
		空間CAD演習Ⅰ		1	○			
空間CAD演習Ⅱ		1		○				
空間CAD演習Ⅲ		1			○			
空間CAD演習Ⅳ		1			○			
空間設計論Ⅰ		2	○					
空間設計論Ⅱ		2		○				
生活環境デザイン学科	アパレルメディア分野科目	服装史		2	○			
		アパレルデザイン論		2		○		
		アパレルデザイン実験		1		○		
		アパレル色彩学		2		○		
		アパレル色彩学実験		1			○	
		アパレルCADⅠ(テキスタイル)		1	○			
		アパレルCADⅡ(パターン)		1		○		
		アパレル着装心理学(演習を含む。)		2			○	
		機能材料学		2			○	
		繊維材料学実験Ⅰ		1		○		
		繊維材料学実験Ⅱ		1			○	
		アパレル素材学		2			○	
アパレル素材学実験		2			○			
繊維加工学		2			○			

授業科目学年配当表 平成25年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	アパレルメディア分野科目	アパレル染色学実験	1		○			
		アパレル整理学	2		○			
		アパレル整理学実験	1			○		
		アパレル構成学	2	○				
		アパレル制作実習	2	○				
		伝統衣服論	2		○			
		伝統衣服実習	2		○			
		アパレル造形論	2		○			
		アパレル造形実習	1		○			
		ピンワーク	1				○	
		ドレーピング	1				○	
		アパレル設計・生産論	2				○	
		アパレル生産実習	2				○	
		アパレル人間工学実験	1			○		
	アパレル環境学	2				○		
	プロダクトパターンメイキング	1				○		
	ファッションドローイング	1			○			
	ファッションビジネス論	2			○			
	アパレル企画論	2				○		
	アパレル消費科学	2					○	
	テキスタイルアドバイザー実習	1					○	
	インテリア・プロダクト分野科目	インテリアデザイン論	2			○		
		プロダクトデザイン論Ⅰ(各種材料と加工法)	2			○		
		プロダクトデザイン論Ⅱ(生産造形)	2				○	
		インテリア設計論	2			○		
		インテリアの構成と材料	2			○		
		プロダクト制作実習Ⅰ(各種材料と加工法)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅱ(照明)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅲ(生活用品)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅳ(家具)	2					○
		インテリア実習Ⅰ	2			○		
	インテリア実習Ⅱ	2				○		
	建築・住居分野科目	都市計画	2				○	
		構法計画及び木構造	2			○		
		鋼構造	2				○	
		建築計画及びデザイン	2			○		
骨組の解析		2			○			
鉄筋コンクリート構造		2				○		
架構材料実験		1				○		
建築施工・積算		2				○		
測量学及び実習		2				○		
居住環境学実験		1				○		
居住環境・設備学演習		1					○	
建築設計実習Ⅰ		2			○			
建築設計実習Ⅱ		2				○		
建築設計論Ⅰ		2			○			
建築設計論Ⅱ	2				○			
建築設計実習Ⅲ	2				○			
卒業研究	必修	6				○		

- (注) 1. 実験・実習科目は、2科目4単位以上履修することが望まれる
 2. 学科のテキスタイルアドバイザー実習担当教員が認定したインターンシップに2、3、4年次で参加した者は、そのインターンシップを「テキスタイルアドバイザー実習」の単位に読替えることができる
 3. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)資格取得科目は、「7. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)」参照
 4. 建築士・インテリアプランナー受験資格取得科目は、「8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー」および「9. インテリアプランナー」参照
 5. 商業施設士受験資格取得科目は、「10. 商業施設士」参照
 6. 建築積算士補資格取得科目は、「11. 建築積算士」参照

卒業に必要な単位数（平成24年度入学生）

授業科目区分		学 科	管理栄養学科	生活環境 デザイン学科
全学共通科目「人間論」			2単位必修	
教 養 教 育 科 目	領域1 「思想と表現」		領域6を含めたうちから6単位以上選択履修	
	領域2 「歴史と社会」			
	領域3 「自然と科学技術」		2単位以上選択履修	
	領域4 「数理と情報」		必修を含め2単位以上選択履修	
	領域5 「言語とコミュニケーション」		必修を含め4単位以上選択履修	
	領域6 「健康運動とスポーツ」		領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修	
	領域7 「教養演習等」		—	2単位必修
	上記（領域1～領域7）から			26単位
学部共通教育科目			0単位	
専門教育科目			98単位	82単位
（自由選択）*			0単位	14単位
卒業に必要な単位数の合計			126単位	

注) *印は、教養教育科目、学部共通教育科目、専門教育科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、生活環境デザイン学科にあっては8単位を上限として自由選択の単位とする。

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考		
管理栄養学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○			領域6を含めたうちから6単位以上選択履修		
		文学		2	○					
		芸術		2	○	○				
		心理		2	○					
		言語		2	○					
		人類学		2		○				
	領域2 歴史と社会	歴史		2		○			2単位以上選択履修	
		法		2		○				
		日本国憲法		2		○				
		経済		2		○				
		社会		2		○				
		地理		2		○				
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○			必修を含め2単位以上選択履修		
		化学の世界		2	○					
		生命の科学		2	○					
	領域4 数理と情報	地球の科学		2	○					必修を含め2単位以上選択履修
		数理の世界		2	○					
		コンピュータと情報	必修	2	○					
	領域5 言語とコミュニケーション	情報化社会		2	○				必修を含め4単位以上選択履修	
		外国語(英語1)	必修	1	○					
		外国語(英語2)	必修	1	○					
		外国語(英語3)	必修	1	○					
		外国語(英語4)	必修	1	○					
		外国語(ドイツ語1)		1	○					
		外国語(ドイツ語2)		1	○					
		外国語(フランス語1)		1	○					
外国語(フランス語2)			1	○						
外国語(中国語1)		1	○							
領域6 健康運動とスポーツ	外国語(中国語2)		1	○			領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修			
	健康運動の科学と実践		2	○						

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
管理栄養学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目

(注) 食品学及び栄養学は管理栄養学科単位認定科目にならない

管理栄養学科(平成24年度入学生)

専門教育科目

学科		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	専門基礎分野	社会・健康と環境	公衆衛生学Ⅰ	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学Ⅱ	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学実習	1		○			栄養士必修	
			社会福祉概論	2	○				栄養士必修	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			解剖生理学実習	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			疾病の成り立ち	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			臨床医学概論	2		○				栄養士必修
			臨床検査実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			微生物学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
	微生物学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	運動生理学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	食へ物と健康	食品学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅰ	1	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅱ	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実習	1					○	栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学	2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学実験	1			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		調理学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	調理学実習	1	○					栄養士必修		
	基礎栄養学	基礎栄養学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養学実験	1			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修	
		応用栄養学Ⅱ	2			○			栄養士必修	
		応用栄養学Ⅲ	2			○			栄養士必修	
		応用栄養学実習	1				○		栄養士必修	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養教育論Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養カウンセリング論	2			○			栄養士必修	
		栄養教育論実習Ⅰ	1		○				栄養士必修	
		栄養教育論実習Ⅱ	1			○			栄養士必修	
	臨床栄養学	臨床栄養学	2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養アセスメント論	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		臨床検査学	2			○			栄養士必修	
		栄養療法学	2				○		栄養士必修	
		臨床栄養学実習Ⅰ	1			○			栄養士必修	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1				○		栄養士必修		
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		公衆栄養学Ⅱ	2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		公衆栄養学実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	給食経営管理論Ⅱ	2		○				栄養士必修		
	給食経営管理実習	1		○				栄養士必修		
総合演習	栄養総合演習	2					○	栄養士必修		
	栄養実習事前・事後演習	1				○		栄養士必修		
臨地実習	給食運営管理臨地実習	1			○			栄養士必修		
	臨床栄養学臨地実習	3			○			栄養士必修		
	公衆栄養学臨地実習				○			栄養士必修		

授業科目学年配当表 平成24年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	学科基礎	有機化学の基礎	2	○				食品衛生管理者・監視員選択必修(注)9	
	学科共通分野	食生活と環境	2		○				食品衛生管理者・監視員選択必修(注)9
		食品産業論	2				○		
		食育と健康	2	○					
		食品分析学	2	○					
		調理科学	2	○					
		食品安全学	2				○		
		食品機能学	2		○				
		食品プロセス科学	2				○		
		基礎栄養学展開	2		○				
		薬と栄養	2				○		
		スポーツと栄養	2		○				
		学校栄養教育論	2				○		
		学校栄養指導法	2				○		
	演習基礎	栄養情報処理演習		1	○				食品衛生管理者・監視員選択科目
		統計解析入門演習		1	○				
		入門ゼミナール	必修	1	○				
	専門演習	専門演習	必修	1			○		
	卒業研究	卒業研究	必修	6				○	

- (注) 1. 食品学Ⅱには、食品加工学を含む
 2. 食品学実習には、食品加工学実習を含む
 3. 給食経営管理論Ⅰには、給食実務論を含む
 4. 給食運営管理臨地実習の1単位は、「給食の運営」に係る校外実習を含む
 5. 給食経営管理実習は、給食経営管理論Ⅰ、Ⅱの順に単位取得した後でなければ履修できない
 6. 卒業研究は、専門演習の単位を修得していないと履修できない
 7. 卒業研究は、その履修が他の授業に支障をきたすとみなされる場合には、履修できない
 8. 卒業研究では、研究指導が通常の授業時間割外で行われることもある
 9. 有機化学の基礎あるいは食品分析学のいずれかは必ず履修すること

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
生活環境デザイン学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○			領域6を含めたうちから6単位以上選択履修	
		文学		2	○				
		芸術		2	○	○			
		心理		2	○	○			
		言語		2	○				
	人類学		2		○				
	領域2 歴史と社会	歴史		2		○			領域6を含めたうちから6単位以上選択履修
		法		2		○			
		日本国憲法		2		○			
		経済		2		○			
		社会		2		○			
	地理		2		○				
	教育		2		○				
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○			2単位以上選択履修	
		化学の世界		2	○				
		生命の科学		2	○				
		地球の科学		2	○				
	領域4 数理と情報	数理の世界A		2	○			必修を含め2単位以上選択履修	
		数理の世界B		2	○				
		コンピュータと情報	必修	2	○				
		情報化社会		2	○				
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語1)	必修	1	○			必修を含め4単位以上選択履修	
		外国語(英語2)	必修	1	○				
		外国語(英語3)	必修	1	○				
		外国語(英語4)	必修	1	○				
		外国語(ドイツ語1)		1	○				
		外国語(ドイツ語2)		1	○				
		外国語(フランス語1)		1	○				
外国語(フランス語2)			1	○					
外国語(中国語1)			1	○					
外国語(中国語2)		1	○						
領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○			領域1、領域2を含めたうちから6単位以上選択履修		
領域7 教養演習等	ファーストイヤーゼミ ※	必修	2	○			2単位必修		

※通年

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目

(注) 被服学、被服製作(実習を含む。)及び住居学(製図を含む。)は生活環境デザイン学科単位認定科目にならない

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	学科共通科目	生活環境デザイン	必修	2	○			
		生活環境デザイン演習		1	○			
		人間と行動		2	○			
		身体と人間工学		2	○			
		環境と生理		2	○			
		環境心理学		2	○			
		色彩と造形		2	○			
		感性デザイン論		2			○	
		生活環境と設備		2		○		
		生活環境材料学		2	○			
		社会調査法		2			○	
		マーケティング論		2			○	
		消費生活論		2			○	
		デッサン		1	○			
		生活環境ゼミナール	必修	1			○	
		生活環境特別実習Ⅰ	必修	1		○		
		生活環境特別実習Ⅱ		1			○	
		生活環境特別実習Ⅲ		1		○	○	○
生活環境デザイン学科	インテリア・プロダクト分野共通科目	繊維材料学		2		○		
		染色加工学		2		○		
		クラフト演習(編み・織り・陶芸)		1			○	
		インテリア素材論		2		○		
		デザイン演習Ⅲ(テキスタイル)		1			○	
		感性デザイン実習		1			○	
		空間計画基礎論		2	○			
		住宅計画		2		○		
		建築法規		2			○	
		福祉環境論		2		○		
生活環境デザイン学科	インテリア・プロダクト分野及び建築・住居分野共通科目	西洋建築史		2		○		
		日本建築史		2		○		
		インテリア史		2			○	
		建築一般架構		2	○			
		建築材料		2		○		
		骨組の力学		2		○		
		居住環境学Ⅰ		2	○			
		居住環境学Ⅱ		2		○		
		建築設備学		2		○		
		基礎製図		2	○			
		デザイン演習Ⅰ(造形基礎)		1	○			
		建築・インテリア実習Ⅰ		2	○			
		建築・インテリア実習Ⅱ		2		○		
		デザイン演習Ⅱ(パース)		1	○			
		骨組の力学演習		1		○		
		デザイン演習Ⅳ(パラエティー)		1				○
		色彩計画・照明計画		2			○	
		空間CAD演習Ⅰ		1	○			
		空間CAD演習Ⅱ		1		○		
		空間CAD演習Ⅲ		1		○		
空間CAD演習Ⅳ		1			○			
空間設計論Ⅰ		2	○					
空間設計論Ⅱ		2		○				
生活環境デザイン学科	アパレルメディア分野科目	服装史		2	○			
		アパレルデザイン論		2		○		
		アパレルデザイン実験		1		○		
		アパレル色彩学		2		○		
		アパレル色彩学実験		1			○	
		アパレルCADⅠ(テキスタイル)		1	○			
		アパレルCADⅡ(パターン)		1		○		
		アパレル着装心理学(演習を含む。)		2			○	
		機能材料学		2			○	
		繊維材料学実験Ⅰ		1		○		
		繊維材料学実験Ⅱ		1			○	
		アパレル素材学		2			○	
アパレル素材学実験		2			○			
繊維加工学		2			○			

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	アパレルメディア分野科目	アパレル染色学実験	1		○			
		アパレル整理学	2		○			
		アパレル整理学実験	1			○		
		アパレル構成学	2	○				
		アパレル制作実習	2	○				
		伝統衣服論	2		○			
		伝統衣服実習	2		○			
		アパレル造形論	2		○			
		アパレル造形実習	1		○			
		ピンワーク	1				○	
		ドレーピング	1				○	
		アパレル設計・生産論	2				○	
		アパレル生産実習	2				○	
		アパレル人間工学実験	1			○		
		アパレル環境学	2				○	
	プロダクトパターンメイキング	1				○		
	ファッションドローイング	1			○			
	ファッションビジネス論	2			○			
	アパレル企画論	2				○		
	アパレル消費科学	2					○	
	テキスタイルアドバイザー実習	1					○	
	インテリア・プロダクト分野科目	インテリアデザイン論	2			○		
		プロダクトデザイン論Ⅰ(各種材料と加工法)	2			○		
		プロダクトデザイン論Ⅱ(生産造形)	2				○	
		インテリア設計論	2				○	
		インテリアの構成と材料	2				○	
		プロダクト制作実習Ⅰ(各種材料と加工法)	1				○	
		プロダクト制作実習Ⅱ(照明)	1				○	
		プロダクト制作実習Ⅲ(生活用品)	1				○	
		プロダクト制作実習Ⅳ(家具)	2					○
		インテリア実習Ⅰ	2			○		
	インテリア実習Ⅱ	2				○		
	建築・住居分野科目	都市計画	2				○	
		構法計画及び木構造	2			○		
		鋼構造	2				○	
		建築計画及びデザイン	2			○		
		骨組の解析	2			○		
		鉄筋コンクリート構造	2				○	
		架構材料実験	1				○	
建築施工・積算		2				○		
測量学及び実習		2				○		
居住環境学実験		1				○		
居住環境・設備学演習		1					○	
建築設計実習Ⅰ		2			○			
建築設計実習Ⅱ		2				○		
建築設計論Ⅰ		2			○			
建築設計論Ⅱ	2				○			
建築設計実習Ⅲ	2				○			
卒業研究	必修	6				○		

- (注) 1. 実験・実習科目は、2科目4単位以上履修することが望まれる
 2. 学科のテキスタイルアドバイザー実習担当教員が認定したインターンシップに2、3、4年次で参加した者は、そのインターンシップを「テキスタイルアドバイザー実習」の単位に読替えることができる
 3. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)資格取得科目は、「7. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)」参照
 4. 建築士・インテリアプランナー受験資格取得科目は、「8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー」および「9. インテリアプランナー」参照
 5. 商業施設士受験資格取得科目は、「10. 商業施設士」参照
 6. 建築積算士補資格取得科目は、「11. 建築積算士」参照

卒業に必要な単位数（平成23年度以前入学生）

授業科目区分		学 科	管理栄養学科	生活環境 デザイン学科
全学共通科目「人間論」			2単位必修	
教 養 教 育 科 目	領域1 「思想と表現」	領域1、領域2、領域6のうち、3科目6単位以上選択履修		
	領域2 「歴史と社会」			
	領域3 「自然と科学技術」	1科目2単位以上選択履修		
	領域4 「数理と情報」	1科目2単位以上選択履修 〔コンピュータと情報2単位必修〕		
	領域5 「言語とコミュニケーション」	1科目4単位以上選択履修 〔外国語（英語）4単位必修〕		
	領域6 「健康運動とスポーツ」	領域1、領域2、領域6のうち、3科目6単位以上選択履修		
	上記（領域1～領域6）より	26単位		
ファーストイヤーゼミ	—	2単位		
学部共通教育科目			0単位	
専門教育科目			98単位	82単位
（自由選択）*			0単位	14単位
卒業に必要な単位数の合計			126単位	

注) *印は、教養教育科目、学部共通教育科目、専門教育科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、生活環境デザイン学科にあっては8単位を上限として自由選択の単位とする。

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考		
管理栄養学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○			領域1、領域2、領域6のうち3科目6単位以上選択履修		
		心理		2		○				
		文学		2		○				
		芸術		2	○	○				
		言語		2		○				
		人類学		2		○				
	領域2 歴史と社会	歴史		2		○			うち1科目2単位以上選択履修 ただし、コンピュータと情報必修	
		法		2		○				
		社会		2		○				
		経済		2		○				
		地理		2		○				
	教育		2		○					
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○			うち1科目4単位以上選択履修 ただし、外国語(英語)4単位必修		
		化学の世界		2	○					
		生命の科学		2	○					
		地球の科学		2	○					
	領域4 数理と情報	数理の世界		2	○					領域1、領域2、領域6のうち3科目6単位以上選択履修
		コンピュータと情報	必修	2	○					
		情報化社会		2	○					
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語1)	必修	1	○				領域1、領域2、領域6のうち3科目6単位以上選択履修	
		外国語(英語2)	必修	1	○					
		外国語(英語3)	必修	1	○					
		外国語(英語4)	必修	1	○					
		外国語(ドイツ語1)		1	○					
		外国語(ドイツ語2)		1	○					
		外国語(フランス語1)		1	○					
外国語(フランス語2)			1	○						
外国語(中国語1)			1	○						
外国語(中国語2)		1	○							
領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○						

授業科目学年配当表 平成23年度以前入学生

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
管理栄養学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目
	日本国憲法		2			○	○	教職必修

(注) 食品学及び栄養学は管理栄養学科にあっては単位認定科目にならない

管理栄養学科(平成23年度入学生)

専門教育科目

学科		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	専門基礎分野	社会・健康 環境	公衆衛生学Ⅰ	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学Ⅱ	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学実習	1		○			栄養士必修	
			社会福祉概論	2	○				栄養士必修	
		人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	解剖生理学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			解剖生理学実習	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			疾病の成り立ち	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			臨床医学概論	2		○				栄養士必修
			臨床検査実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			微生物学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
	微生物学実験	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	運動生理学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	食へ物と健康	食品学Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅰ	1	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅱ	1		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実習	1					○	栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学実験	1			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		調理学	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	調理学実習	1	○					栄養士必修		
	基礎 栄養学	基礎栄養学	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養学実験	1			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	応用 栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修	
		応用栄養学Ⅱ	2			○			栄養士必修	
		応用栄養学Ⅲ	2			○			栄養士必修	
		応用栄養学実習	1				○		栄養士必修	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養教育論Ⅱ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養カウンセリング論	2			○			栄養士必修	
		栄養教育論実習Ⅰ	1		○				栄養士必修	
		栄養教育論実習Ⅱ	1			○			栄養士必修	
	臨床栄養学	臨床栄養学	2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		栄養アセスメント論	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		臨床検査学	2			○			栄養士必修	
		栄養療法学	2				○		栄養士必修	
		臨床栄養学実習Ⅰ	1			○			栄養士必修	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1				○		栄養士必修		
	公衆 栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2		○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		公衆栄養学Ⅱ	2			○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		公衆栄養学実習	1				○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
給食経営 管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	○					栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	給食経営管理論Ⅱ	2		○				栄養士必修		
	給食経営管理実習	1		○				栄養士必修		
総合 演習	栄養総合演習	2					○	栄養士必修		
	栄養実習事前・事後演習	1				○		栄養士必修		
臨地 実習	給食運営管理臨地実習	1			○			栄養士必修		
	臨床栄養学臨地実習	3			○			栄養士必修		
	公衆栄養学臨地実習				○			栄養士必修		

授業科目学年配当表 平成23年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
管理栄養学科	学科基礎	有機化学の基礎	2	○				食品衛生管理者・監視員選択必修(注)6
	専門関連	食生活と環境	2		○			食品衛生管理者・監視員選択必修(注)6
		食品産業論	2			○		
		食育と健康	2	○				
		食品分析学	2	○				
		調理科学	2	○				
		食品安全学	2			○		
		食品機能学	2		○			食品衛生管理者・監視員必修
		食品プロセス科学	2			○		
		基礎栄養学展開	2		○			
		薬と栄養	2			○		
		スポーツと栄養	2		○			
		学校栄養教育論	2			○		
		学校栄養指導法	2			○		
	演習基礎	栄養情報処理演習	1	○				食品衛生管理者・監視員選択科目
		統計解析入門演習	1	○				
		入門ゼミナール	必修	1	○			
	専門演習	専門演習	必修	1			○	
	卒業研究	卒業研究	必修	6				○

- (注) 1. 食品学Ⅱには、食品加工学を含む
 2. 食品学実習には、食品加工学実習を含む
 3. 給食経営管理論Ⅰには、給食実務論を含む
 4. 給食運営管理臨地実習の1単位は、「給食の運営」に係る校外実習を含む
 5. 給食経営管理実習は、給食経営管理論Ⅰ、Ⅱの順に単位取得した後でなければ履修できない
 6. 有機化学の基礎あるいは食品分析学のいずれかは必ず履修すること

管理栄養学科(平成22年度入学生)

専門教育科目

学科		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
管理栄養学科	専門基礎分野	社会・健康と環境	公衆衛生学		2		○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			公衆衛生学実習		1		○		栄養士必修	
			健康管理概論		2	○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
			社会福祉概論		2	○			栄養士必修	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	必修	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			解剖生理学実習		1		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			病理学		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅰ	必修	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学Ⅱ		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			生化学実験		1		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			臨床医学概論		2		○			栄養士必修
			臨床検査実習		1			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
		微生物学実験		1		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		病原微生物学		2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	運動の休養と生理学		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	食への物と健康	食品学Ⅰ	必修	2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学Ⅱ		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅰ		1	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実験Ⅱ		1		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品学実習		1				○	栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学	必修	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品衛生学実験		1			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		食品安全学	必修	2			○		栄養士必修	
		食品機能学	必修	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
		調理学		2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修	
	調理学実習		1	○				栄養士必修		
	専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	必修	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			基礎栄養学Ⅱ		2		○			栄養士必修
			栄養学実験		1			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
		応用栄養学	応用栄養学Ⅰ		2		○			栄養士必修
			応用栄養学Ⅱ		2			○		栄養士必修
			応用栄養学Ⅲ		2			○		栄養士必修
			応用栄養学実習		1			○		栄養士必修
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			栄養教育論Ⅱ		2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			栄養カウンセリング論		2			○		栄養士必修
			栄養教育論実習Ⅰ		1		○			栄養士必修
			栄養教育論実習Ⅱ		1			○		栄養士必修
		臨床栄養学	臨床栄養学		2			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			栄養アセスメント論	必修	2		○			栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修
			臨床検査学		2			○		栄養士必修
			栄養療法学		2				○	栄養士必修
臨床栄養学実習Ⅰ				1			○		栄養士必修	
臨床栄養学実習Ⅱ			1			○		栄養士必修		
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ		2			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	公衆栄養学Ⅱ		2			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	公衆栄養学実習		1			○		栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ		2	○				栄養士必修、食品衛生管理者・監視員必修		
	給食経営管理論Ⅱ		2		○			栄養士必修		
	給食経営管理実習 ※		1		○	○		栄養士必修		
総合演習	栄養総合演習		2				○	栄養士必修		
	栄養実習事前・事後演習		1				○	栄養士必修		
実習(臨地)	給食運営管理臨地実習		1				○	栄養士必修		
	臨床栄養学臨地実習		3				○	栄養士必修		
	公衆栄養学臨地実習						○	栄養士必修		

授業科目学年配当表 平成22年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
管理栄養学科	基 学 科	細胞生物学		2	○				食品衛生管理者・監視員選択必修(注)5	
		数理統計学基礎		2	○					
		有機化学の基礎		2	○					
	学 科 共 通 分 野	専 門 関 連	食生活と環境		2		○			食品衛生管理者・監視員選択必修(注)5
			食品産業論		2			○		
			食文化		2	○				
			食品分析学		2	○				
			調理科学		2	○				
			学校栄養教育論		2				○	
			学校栄養指導法		2				○	
	演 習 基 礎	栄養情報処理演習			1	○			食品衛生管理者・監視員選択科目	
		情報処理演習			1	○				
		入門ゼミナール	必修		1	○				
	演 習 専 門	科学英語			1			○		
		専門演習	必修		1			○		
卒業研究	卒業研究	必修		6				○		

- (注) 1. 食品学Ⅱには、食品加工学を含む
 2. 食品学実習には、食品加工学実習を含む
 3. 給食経営管理論Ⅰには、給食実務論を含む
 4. 給食経営管理実習は、給食経営管理論Ⅰ、Ⅱの順に単位取得した後でなければ履修できない
 5. 有機化学の基礎あるいは食品分析学のいずれかは必ず履修すること
 ※給食経営管理実習はクラスにより2年または3年に開講される

生活環境デザイン学科(平成23年度以前入学生)

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
生活環境デザイン学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○			領域1、領域2、領域6のうち3科目6単位以上選択履修	
		心理		2		○			
		文学		2		○			
		芸術		2	○	○			
		言語		2		○			
		人類学		2		○			
	領域2 歴史と社会	歴史		2		○			26単位以上必修
		法		2		○			
		社会		2		○			
		経済		2		○			
		地理		2		○			
		教育		2		○			
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○			うち1科目2単位以上選択履修	
		化学の世界		2	○				
		生命の科学		2	○				
		地球の科学		2	○				
	領域4 数理と情報	数理の世界A		2	○			うち1科目2単位以上選択履修 ただし、コンピュータと情報必修	
		数理の世界B		2	○				
		コンピュータと情報	必修	2	○				
		情報化社会		2	○				
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語1)	必修	1	○			うち1科目4単位以上選択履修 ただし、外国語(英語)4単位必修	
		外国語(英語2)	必修	1	○				
		外国語(英語3)	必修	1	○				
		外国語(英語4)	必修	1	○				
		外国語(ドイツ語1)		1	○				
		外国語(ドイツ語2)		1	○				
外国語(フランス語1)			1	○					
外国語(フランス語2)			1	○					
外国語(中国語1)			1	○					
外国語(中国語2)		1	○						
領域6 健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践		2	○			領域1、領域2、領域6のうち3科目6単位以上選択履修		
ファーストイヤーゼミ ※		必修	2	○			2単位必修		

※通年

学部共通教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	生活経営論		2		○			教科に関する科目
	生活経済学概論		2		○			教科に関する科目
	家族関係		2	○				教科に関する科目
	被服学		2	○				教科に関する科目
	被服製作(実習を含む。)		2		○			教科に関する科目
	食品学		2	○				教科に関する科目
	栄養学		2	○				教科に関する科目
	住居学(製図を含む。)		2	○				教科に関する科目
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)		2		○			教科に関する科目
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)		2			○		教科に関する科目
	日本国憲法		2			○	○	教職必修

授業科目学年配当表

平成23年度以前入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
学科共通科目	生活環境デザイン	必修	2	○				
	生活環境デザイン演習		1	○				
	人間と行動		2	○				
	身体と人間工学		2	○				
	環境と生理		2	○				
	環境心理学		2	○				
	色彩と造形		2	○				
	感性デザイン論		2			○		
	生活環境と設備		2		○			
	生活環境材料学		2	○				
	社会調査法		2			○		
	マーケティング論		2			○		
	消費生活論		2			○		
	デッサン		1	○				
	生活環境ゼミナール	必修	1			○		
	生活環境特別実習Ⅰ	必修	1		○			
	生活環境特別実習Ⅱ		1			○		
	生活環境特別実習Ⅲ		1		○	○	○	
アパレルメディア分野 及びインテリア・プロ ダクト分野共通科目	繊維材料学		2		○			
	染色加工学		2		○			
	クラフト演習(編み・織り・陶芸)		1			○		
	インテリア素材論		2		○			
	デザイン演習Ⅲ(テキスタイル)		1			○		
	感性デザイン実習		1			○		
インテリア・プロダクト分野及び建築・住居分野共通科目	空間計画基礎論		2	○				
	住宅計画		2		○			
	建築法規		2			○		
	福祉環境論		2		○			
	西洋建築史		2		○			
	日本建築史		2		○			
	インテリア史		2			○		
	建築一般架構		2	○				
	建築材料		2		○			
	骨組の力学		2		○			
	居住環境学Ⅰ		2	○				
	居住環境学Ⅱ		2		○			
	建築設備学		2		○			
	基礎製図		2	○				
	デザイン演習Ⅰ(造形基礎)		1	○				
	建築・インテリア実習Ⅰ		2	○				
	建築・インテリア実習Ⅱ		2		○			
	デザイン演習Ⅱ(パース)		1	○				
	骨組の力学演習		1		○			
	デザイン演習Ⅳ(パラエティー)		1				○	
	色彩計画・照明計画		2			○		
	空間CAD演習Ⅰ		1	○				
	空間CAD演習Ⅱ		1		○			
空間CAD演習Ⅲ		1		○				
空間CAD演習Ⅳ		1			○			
空間設計論Ⅰ		2	○					
空間設計論Ⅱ		2		○				
アパレルメディア分野科目	服装史		2	○				
	アパレルデザイン論		2		○			
	アパレルデザイン実験		1		○			
	アパレル色彩学		2		○			
	アパレル色彩学実験		1			○		
	アパレルCADⅠ(テキスタイル)		1	○				
	アパレルCADⅡ(パターン)		1		○			
	アパレル着装心理学(演習を含む。)		2			○		
	機能材料学		2			○		
	繊維材料学実験Ⅰ		1		○			
	繊維材料学実験Ⅱ		1			○		
アパレル素材学		2			○			
アパレル素材学実験		2			○			
繊維加工学		2			○			

授業科目学年配当表 平成23年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	アパレルメデ ィア分野科目	アパレル染色学実験	1		○			
		アパレル整理学	2		○			
		アパレル整理学実験	1			○		
		アパレル構成学	2	○				
		アパレル制作実習	2	○				
		伝統衣服論	2		○			
		伝統衣服実習	2		○			
		アパレル造形論	2		○			
		アパレル造形実習	1		○			
		ピンワーク	1			○		
		ドレーピング	1			○		
		アパレル設計・生産論	2			○		
		アパレル生産実習	2			○		
		アパレル人間工学実験	1		○			
		アパレル環境学	2			○		
	プロダクトパターンメイキング	1			○			
	ファッションドローイング	1		○				
	ファッションビジネス論	2		○				
	アパレル企画論	2			○			
	アパレル消費科学	2				○		
	テキスタイルアドバイザー実習	1					○	
	インテリア・プロダク ト分野科目	インテリアデザイン論	2		○			
		プロダクトデザイン論Ⅰ(各種材料と加工法)	2		○			
		プロダクトデザイン論Ⅱ(生産造形)	2			○		
		インテリア設計論	2			○		
		インテリアの構成と材料	2			○		
		プロダクト制作実習Ⅰ(各種材料と加工法)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅱ(照明)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅲ(生活用品)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅳ(家具)	2				○	
		インテリア実習Ⅰ	2		○			
	インテリア実習Ⅱ	2			○			
	建築・住居分野科目	都市計画	2			○		
構法計画及び木構造		2		○				
鋼構造		2			○			
建築計画及びデザイン		2		○				
骨組の解析		2		○				
鉄筋コンクリート構造		2			○			
架構材料実験		1			○			
建築施工・積算		2			○			
測量学及び実習		2			○			
居住環境学実験		1			○			
居住環境・設備学演習		1				○		
建築設計実習Ⅰ		2		○				
建築設計実習Ⅱ		2			○			
建築設計論Ⅰ		2		○				
建築設計論Ⅱ		2			○			
建築設計実習Ⅲ	2			○				
卒業研究	必修	6				○		

- (注) 1. 実験・実習科目は、2科目4単位以上履修することが望まれる
 2. 学科のテキスタイルアドバイザー実習担当教員が認定したインターンシップに2、3、4年次で参加した者は、そのインターンシップを「テキスタイルアドバイザー実習」の単位に読替えることができる
 3. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)資格取得科目は、「7. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)」参照
 4. 建築士・インテリアプランナー受験資格取得科目は、「8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー」および「9. インテリアプランナー」参照
 5. 商業施設士受験資格取得科目は、「10. 商業施設士」参照
 6. 建築積算士補資格取得科目は、「11. 建築積算士」参照

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
学科共通科目	生活環境デザイン	必修	2	○				
	生活環境デザイン演習		1	○				
	人間と行動		2	○				
	身体と人間工学		2	○				
	環境と生理		2	○				
	環境心理学		2	○				
	色彩と造形		2	○				
	感性デザイン論		2			○		
	生活環境と設備		2		○			
	生活環境材料学		2	○				
	社会調査法		2			○		
	マーケティング論		2			○		
	消費生活論		2			○		
	デッサン		1	○				
	生活環境ゼミナール	必修	1			○		
	生活環境特別実習Ⅰ	必修	1		○			
	生活環境特別実習Ⅱ		1			○		
	生活環境特別実習Ⅲ		1		○	○	○	
アパレルメディア分野 及びインテリア・プロ ダクト分野共通科目	繊維材料学		2		○			
	染色加工学		2		○			
	クラフト演習(編み・織り・陶芸)		1			○		
	インテリア素材論		2		○			
	デザイン演習Ⅲ(テキスタイル)		1			○		
	感性デザイン実習		1			○		
	インテリア・プロダクト分野及び建築・住居分野共通科目	空間計画基礎論		2	○			
住宅計画		2		○				
建築法規		2			○			
福祉環境論		2		○				
西洋建築史		2		○				
日本建築史		2		○				
インテリア史		2			○			
建築一般架構		2	○					
建築材料		2		○				
骨組の力学		2		○				
居住環境学Ⅰ		2	○					
居住環境学Ⅱ		2		○				
建築設備学		2		○				
基礎製図		2	○					
デザイン演習Ⅰ(造形基礎)		1	○					
建築・インテリア実習Ⅰ		2	○					
建築・インテリア実習Ⅱ		2		○				
デザイン演習Ⅱ(パース)		1	○					
骨組の力学演習		1		○				
デザイン演習Ⅳ(パラエティー)		1				○		
色彩計画・照明計画		2			○			
空間CAD演習Ⅰ		1	○					
空間CAD演習Ⅱ		1		○				
空間CAD演習Ⅲ		1		○				
空間CAD演習Ⅳ		1			○			
空間設計論Ⅰ		2	○					
空間設計論Ⅱ		2		○				
アパレルメディア分野科目	服装史		2	○				
	アパレルデザイン論		2		○			
	アパレルデザイン実験		1		○			
	アパレル色彩学		2		○			
	アパレル色彩学実験		1			○		
	アパレルCADⅠ(テキスタイル)		1	○				
	アパレルCADⅡ(パターン)		1		○			
	アパレル着装心理学(演習を含む。)		2			○		
	機能材料学		2			○		
	繊維材料学実験Ⅰ		1		○			
	繊維材料学実験Ⅱ		1			○		
アパレル素材学		2			○			
アパレル素材学実験		2			○			
繊維加工学		2			○			

授業科目学年配当表 平成22年度入学生

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
生活環境デザイン学科	アパレルメメディア分野科目	アパレル染色学実験	1		○			
		アパレル整理学	2		○			
		アパレル整理学実験	1			○		
		アパレル構成学	2	○				
		アパレル制作実習	2	○				
		伝統衣服論	2		○			
		伝統衣服実習	2		○			
		アパレル造形論	2		○			
		アパレル造形実習	1		○			
		ピンワーク	1			○		
		ドレーピング	1			○		
		アパレル設計・生産論	2			○		
		アパレル生産実習	2			○		
		アパレル人間工学実験	1		○			
		アパレル環境学	2			○		
	プロダクトパターンメイキング	1			○			
	ファッションドローイング	1		○				
	ファッションビジネス論	2		○				
	アパレル企画論	2			○			
	アパレル消費科学	2				○		
	テキスタイルアドバイザー実習	1					○	
	インテリア・プロダクト分野科目	インテリアデザイン論	2		○			
		プロダクトデザイン論Ⅰ(各種材料と加工法)	2		○			
		プロダクトデザイン論Ⅱ(生産造形)	2			○		
		インテリア設計論	2			○		
		インテリアの構成と材料	2			○		
		プロダクト制作実習Ⅰ(各種材料と加工法)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅱ(照明)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅲ(生活用品)	1			○		
		プロダクト制作実習Ⅳ(家具)	2					○
		インテリア実習Ⅰ	2		○			
	インテリア実習Ⅱ	2			○			
	建築・住居分野科目	都市計画	2			○		
構法計画及び木構造		2		○				
鋼構造		2			○			
建築計画及びデザイン		2		○				
骨組の解析		2		○				
鉄筋コンクリート構造		2			○			
架構材料実験		1			○			
建築施工・積算		2					○	
測量学及び実習		2			○			
居住環境学実験		1			○			
居住環境・設備学演習		1					○	
建築設計実習Ⅰ		2		○				
建築設計実習Ⅱ		2			○			
建築設計論Ⅰ		2		○				
建築設計論Ⅱ	2			○				
建築設計実習Ⅲ	2			○				
卒業研究	必修	6				○		

- (注) 1. 実験・実習科目は、2科目4単位以上履修することが望まれる
 2. 学科のテキスタイルアドバイザー実習担当教員が認定したインターンシップに2、3、4年次で参加した者は、そのインターンシップを「テキスタイルアドバイザー実習」の単位に読替えることができる
 3. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)資格取得科目は、「7. 1級テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)」参照
 4. 建築士・インテリアプランナー受験資格取得科目は、「8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー」および「9. インテリアプランナー」参照
 5. 商業施設士受験資格取得科目は、「10. 商業施設士」参照
 6. 建築積算士補資格取得科目は、「11. 建築積算士」参照

1. 教職課程

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
	表現文化学科	中一種(国語)	高一種(国語)	
人間関係学部	人間関係学科	中一種(社会)	高一種(地歴)	高一種(公民)
	心理学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
文化情報学部	文化情報学科	高一種(情報)		
	メディア情報学科	高一種(情報)		
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(数学)
		中一種(音楽)	高一種(数学)	高一種(音楽)
看護学部	看護学科	養教一種		

2. 教員養成に対する理念

今日、わが国では、国際化、高度情報化、都市化、少子高齢化、核家族化が進展し、人々の価値観が多様化する中で、社会変化に適切に対応することができる子どもの育成、すなわち自分で課題を探求し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題解決しうる力と、自らを律し、他人と協調し、他人を思いやるといった豊かな人間性とを意味する「生きる力」を持った子どもの育成が教員に期待されています。

「生きる力」の育成に寄与できる教員の資質能力としては、1997年の教育職員養成審議会答申が述べたように、時代を超えて求められる一般的資質能力と現代社会において教員に求められる資質能力が考えられます。前者の資質能力としては、教育者としての使命感、子どもの成長・発達、学びについての理解、子どもに対する教育的愛情、教科に関する専門的知識と豊かな教養等が考えられ、後者の資質能力としては、地球的視野に立って行動する資質能力（地球、国家、人間等に関する適切な理解等）、変化の時代に生きる社会人に求められる資質能力（課題解決能力や社会変化に適応しうる知識、技能等）、及び教員の職務から必然的に求められる資質能力（子どもや学びに関する理解、教職に対する愛着等）が考えられます。換言すれば、対人関係能力、自己制御能力、課題解決能力、子どもの学び、発達、発達障害および教科についての見識、教職に対する使命感、教育愛および国際感覚を持った教員が今求められているということが言えます。

本学は、このような資質能力を持った教員の養成、すなわち、人間力と専門的能力を兼ね備えた教員の養成を目指しています。

3. 教職課程履修上の諸注意

《心構え》

教職課程を履修するうえで最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

《履修計画》

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

《各種手続き等について》

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（教育実習・介護等体験の申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続き

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費を納入するとともに、教務課へ教職課程履修登録届を提出してください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

《教職課程履修費》

課程の種類	金額	納入時期
中学校、高等学校の課程	14,000円	1年次4月

《実習費等》

実習等の種類	金額	納入時期
介護等体験	7,500円	3年次4月
教育実習	実習先指定額	実習時

＜教育職員免許状発行手数料＞

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位数修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類	基礎資格	法令上の最低修得単位数			
		① 教科に関する科目	② 教職に関する科目	③ 教科又は教職に関する科目	④ その他の必修科目
中学校教諭 一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8	8
高等学校教諭 一種免許状		20	23	16	8

7. 介護等体験

＜概要と趣旨＞

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等による法律」（介護等体験特例法）により、小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するためには、原則として3年次に社会福祉施設および特別支援学校等において7日間以上の「介護等体験」が必要となります。

介護等体験特例法制定の趣旨は次のとおりです。

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法の特例等を定めるものであること。」

介護等体験は、教員を目指すものが、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かしていくことによって、人の心の痛みが分かる人づくり、個人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりを実現することを願って行われるものです。

＜体験内容＞

障害者、高齢者に対する介護、介助（作業補助や食事介助、排泄介助など）のほか、障害者、高齢者との話し相手、散歩の付き添い等の交流体験、あるいは掃除や洗濯などの施設職員の業務補助など幅広い内容が想定されますが、体験先の施設種別は様々であるため、体験内容も施設等により大きく異なります。

《介護等体験の参加資格》

- ①将来教員を志望する者
- ②健康で教員としての適格性を有する者
- ③特別支援教育に対する理解があり、障害者に対する配慮のできる者

《体験施設・期間等》

介護等体験は3年次8月～1月の期間に、社会福祉施設（児童養護施設、障害者支援施設、老人ホーム、老人デイサービスセンター等）で5日間、特別支援学校（盲・聾・養護学校）で2日間の体験を行います。

なお、体験先施設、体験期間については社会福祉協議会等からの割り当てとなりますので、特定の施設・学校を体験先として指定することや、体験期間を指定することはできません。

《介護等体験に参加するうえでの心構え》

まずは小学校・中学校教諭の免許状取得のために介護等体験が義務付けられている趣旨を十分理解することが重要です。体験期間は7日間と短いため、目的意識を持って体験に参加しないと何も得られないまま体験を終えることになってしまいます。自分なりの目標を立てて体験に臨んでください。

また、施設等の利用者には抵抗力の弱い方もいらっしゃいますので、体験中はもちろん、体験前においても体調管理には十分注意してください。

《履修登録》

本学では介護等体験を「教科又は教職に関する科目」の単位として認定しています。介護等体験に参加する学生は、体験実施年度の前期に授業科目「介護等体験」（1単位）を必ず履修登録してください。

8. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

＜教育実習の履修要件＞

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
 - ② 3年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科に関する科目」「教職に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。
 - ・「教科の指導法Ⅰ」が履修済みであること。
- ※中学校の免許を希望する場合は「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。
- ③ 「事前及び事後指導」を履修すること。
 - ④ 教職課程履修上の各種手続きを遅滞なく済ませていること。

＜必要実習期間と履修登録科目＞

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

平成23年度以降入学生

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で3週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習（4単位）
中一種免・高一種免	中学校もしくは高等学校で3週間以上	
	高等学校で2週間＋ 相小・中・高のいずれかで1週間	
高一種免のみ	高等学校で2週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

平成22年度入学生

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で3週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位） 教育実習B（2単位）
中一種免・高一種免	中学校もしくは高等学校で3週間以上	
	高等学校で2週間＋ 相小・中・高のいずれかで1週間	
高一種免のみ	高等学校で2週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

9. 履修カルテ 教職実践演習

＜履修カルテとは＞

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成22年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通して学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な

資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

＜履修カルテ作成項目＞

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科に関する科目 ●教職に関する科目 ●教科又は教職に関する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●介護等体験（参加者は入力必須） ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

＜履修カルテ作成時期＞

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期合否発表開始日～指定日	後期合否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力に関する自己評価

＜教職実践演習の履修要件＞

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることが出来ませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

10. 教員免許 更新制

教育職員免許法の改正により、平成21年4月から教員免許更新制が導入されました。概要は以下のとおりです。

《新免許状（平成21年4月1日以降授与分）》

- ①平成21年4月1日以降に授与された免許状の有効期間は10年となります。
- ②更新講習修了確認期限までに更新講習を修了しなければ、免許状は失効します。
- ③更新講習を受講できるのは、現職教員（非常勤含む。以下同じ。）に限られます。
- ④いわゆるペーパーティーチャーの免許状は、更新講習を受講できないため、更新講習終了確認期限を過ぎると一旦失効します。ただし、失効後に教員採用試験に合格した場合や非常勤等での採用が予定されている場合は、就任時までに更新講習を修了すれば、免許状の再交付を受けることができます。

《更新講習》

- ①開設者
 - ・大学、指定教員養成機関、都道府県・指定都市教育委員会など
- ②講習時間（30時間）
 - ・教育の最新事情に関する事項（12時間以上）
 - ・教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（18時間以上）
- ③受講資格のある者
 - ・現職教員、教員採用内定者、非常勤講師リスト掲載者 など

11. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続き等	備考
1 年次	4月上旬	教職課程履修登録ガイダンス	
	4月中旬	履修費納入・履修登録届の提出	
	7月上旬	履修カルテ作成ガイダンス	
2 年次	10月中旬	第1回介護等体験ガイダンス	介護等体験（仮）登録
3 年次	4月上旬	第2回介護等体験ガイダンス	介護等体験（本）登録 介護等体験費用納入
	4月中旬	教育実習内諾依頼ガイダンス	
	4月中旬～	教育実習校依頼手続き開始	
	6月下旬	第3回介護等体験ガイダンス	
	6月下旬	介護等体験プレ講習会	
	7月上旬	介護等体験講習会	土曜日午後実施
	8月～	介護等体験開始	体験日程は施設により異なる
	体験終了後	介護等体験レポート提出	体験終了後1か月以内
	12月中旬	教育実習承認申請ガイダンス	
4 年次	4月下旬	教育実習事前ガイダンス	
	4月～5月	前期教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	5月～6月	前期教育実習	実習日程は実習先により異なる
	7月	公立学校教員採用試験（1次）	日程は受験地により異なる
	8月	公立学校教員採用試験（2次）	日程は受験地により異なる
	8月～9月	後期教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	9月～10月	後期教育実習	実習日程は実習先により異なる
	実習終了後	教育実習記録の提出	実習終了後1か月以内
	11月下旬	教育職員免許状一括申請ガイダンス	
	卒業式	教育職員免許状の交付	

※スケジュールは現在の予定です。詳細はS*mapのジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

12. 教職課程カリキュラム表

①教科に関する科目

「教科に関する科目」は、その教科の担当者として求められる知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修もしくは選択必修として設定されています。「教科に関する科目」の履修にあたっては、必修および選択必修の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種、高一種ともに20単位以上）を修得する必要があります。

管理栄養学科

平成23年度以降入学生

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	家庭経営学(家族関係及び家庭経済学を含む。)	生活経営論	2			
		生活経済学概論	2			
		家族関係	2			
	被服学(被服製作実習を含む。)	被服学	2			
		被服製作(実習を含む。)	2			
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	食品学Ⅰ	2		
			食品衛生学		2	
			食品学Ⅱ		2	
			食品機能学		2	
			基礎栄養学	2		
応用栄養学Ⅰ				2		
臨床栄養学				2		
公衆栄養学Ⅰ				2		
調理学		2				
調理科学		2				
調理学実習	1					
住居学(製図を含む。)	1	住居学(製図を含む。)	2			
保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	2			
家庭電気・機械及び情報処理 ※	1	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	2		高一種のみ	
		統計解析入門演習 栄養情報処理演習		1 1		

科目名 …一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。
それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種19単位・高一種21単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。
20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「家庭電気・機械及び情報処理」について

「家庭電気・機械及び情報処理」の科目区分は、高等学校教諭免許状にのみ必要とされている条件なので、授業科目「家庭電気・機械（情報処理含む。）」「統計解析入門演習」「栄養情報処理演習」を修得した場合、高等学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」に算入できますが、中学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」のいずれにも算入できません。

管理栄養学科

平成22年度入学生

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目 二〇単位以上	家庭経営学(家族関係及び家庭経済学を含む。)	生活経営論	2		
		生活経済学概論	2		
		家族関係	2		
	被服学(被服製作実習を含む。)	被服学	2		
		被服製作(実習を含む。)	2		
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	食品学Ⅰ	2		
		食品衛生学		2	
		食品学Ⅱ		2	
		食品機能学		2	
		基礎栄養学Ⅰ	2		
応用栄養学Ⅰ			2		
臨床栄養学			2		
公衆栄養学Ⅰ			2		
調理学		2			
調理科学		2			
調理学実習	1				
住居学(製図を含む。)	1	住居学(製図を含む。)	2		
保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	2		
家庭電気・機械及び情報処理 ※	1	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	2		高一種のみ
		情報処理演習		1	
		栄養情報処理演習		1	

科目名 ……一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。
それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種19単位・高一種21単位となる。



「教科に関する科目」の最低修得単位数20単位を超えるよう、上記の表の科目を修得しなければならない。
20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「家庭電気・機械及び情報処理」について

「家庭電気・機械及び情報処理」の科目区分は、高等学校教諭免許状にのみ必要とされている条件なので、授業科目「家庭電気・機械（情報処理含む。）」「情報処理演習」「栄養情報処理演習」を修得した場合、高等学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」に算入できますが、中学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」のいずれにも算入できません。

資格関係

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位	本学の開設授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する科目 二〇単位以上	家庭経営学(家族関係及び家庭経済学を含む。)	生活経営論	2			
		生活経済学概論	2			
		家族関係	2			
	被服学(被服製作実習を含む。)	1	アパレルデザイン論		2	
			服装史		2	
			アパレル色彩学		2	
			アパレル構成学	2		
			アパレル設計・生産論		2	
			アパレル整理学		2	
			染色加工学		2	
			繊維加工学		2	
			繊維材料学		2	
アパレル素材学				2		
アパレル制作実習	2					
アパレル造形実習		1				
アパレル生産実習		2				
ドレーピング		1				
食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	食品学	2		注)	
		栄養学	2			
		調理実習	(1)			
住居学(製図を含む。)	1	身体と人間工学		2		
		住宅計画	2			
		福祉環境論		2		
		空間計画基礎論		2		
		インテリアデザイン論		2		
		西洋建築史		2		
		日本建築史		2		
		インテリア史		2		
		居住環境学Ⅰ		2		
		居住環境学Ⅱ		2		
		建築設備学		2		
		建築一般架構		2		
		基礎製図	2			
建築・インテリア実習Ⅱ		2				
保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	2		高一種のみ	
家庭電気・機械及び情報処理 ※	1	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	2			
		アパレルCADⅡ(パターン)空間CAD演習Ⅰ		1		
				1		

注) 単位数()のついている科目は「教科に関する科目」の資格専門科目であるため、卒業単位には算入できません。

科目名 …一般的包括的な内容を含む科目

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種・高一種とも20単位である。
それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は中一種21単位・高一種23単位となる。



20単位を超えて修得した「教科に関する科目」の単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「家庭電気・機械及び情報処理」について

「家庭電気・機械及び情報処理」の科目区分は、高等学校教諭免許状にのみ必要とされている条件なので、授業科目「家庭電気・機械(情報処理含む。)」 「アパレルCADⅡ(パターン)」 「空間CAD演習Ⅰ」を修得した場合、高等学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」に算入できますが、中学校教諭免許状については「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」のいずれにも算入できません。

②教職に関する科目

「教職に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。「教職に関する科目」の履修にあたっては、各免許における必修および選択必修等の要件を満たしたうえで、法令上の最低修得単位（中一種31単位以上、高一種23単位以上）を修得する必要があります。

管理栄養学科
生活環境デザイン学科

平成23年度以降入学生

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数			本学の開設授業科目			備考
科目	各科目に含める必要事項	単位数	中:高:〇印:教職必修科目	単位数	配当年次	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	〇:〇:教職論	2	1	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	〇:〇:教育本質論	2	1	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		〇:〇:発達と学習	2	1	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		〇:〇:教育制度と社会	2	1	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種12 高一種6	〇:〇:カリキュラム論	2	2	
	・各教科の指導法		〇:〇:家庭科の指導法Ⅰ	2	2	中一種・高一種必修
			〇:〇:家庭科の指導法Ⅱ	2	2	
			〇:〇:家庭科の指導法Ⅲ	2	3	中一種のみ必修
			〇:〇:家庭科の指導法Ⅳ	2	3	
・道徳の指導法 ※	〇:✕:道徳の指導法	2	2	中一種のみ適用		
・特別活動の指導法	〇:〇:特別活動の指導法	2	2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	〇:〇:生徒指導と進路指導	2	3	
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		〇:〇:教育相談	2	3	
教育実習		中一種5 高一種3	〇:〇:事前及び事後指導	1	3・4	中一種4単位以上、高一種2単位以上選択履修
			教育実習	4	3・4	
			教育実習A	2	3・4	
教育実習B	2	3・4				
教職実践演習		2	〇:〇:教職実践演習(中・高)	2	4	

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種23単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種25単位となる。



「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「道徳の指導法」について

「道徳の指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できません。ただし、「教科又は教職に関する科目」に算入することができます。

「教職に関する科目」の他学部・他学科履修について

「教職に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時間に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科(教育学部を除く。)で開講される同一名称の「教職に関する科目」を履修することができます。

通常の履修登録方法とは異なりますので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

資格関係

	免許法施行規則に定める科目区分 及び最低修得単位数		本学の開設授業科目			備考	
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	中;高;○印：教職必修科目	単位数		配当年次
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○:○:教職論	2	1	
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	○:○:教育本質論	2	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	6	○:○:子どもの発達と学習	2	1	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○:○:教育制度と社会	2	1	
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種 12	○:○:カリキュラム論	2	2	
		・各教科の指導法		○:○:家庭科の指導法Ⅰ	2	2	中一種・高一種必修 中一種のみ必修
				○:○:家庭科の指導法Ⅱ	2	2	
		・道徳の指導法 ※		○:○:家庭科の指導法Ⅲ	2	3	
			○:○:家庭科の指導法Ⅳ	2	3		
		・特別活動の指導法	高一種 6	○:○:道徳の指導法	2	2	中一種のみ適用
・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	6	○:○:特別活動の指導法	2	2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○:○:生徒指導の研究	2	3	進路指導の理論及び方法を含む	
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○:○:教育相談の研究	2	3		
教育実習		中一種 5 高一種 3	○:○:事前及び事後指導	1	3・4		
			○:○:教育実習 A	2	3・4		
			○:○:教育実習 B	2	4		
教職実践演習		2	○:○:教職実践演習(中・高)	2	4		

「教科に関する科目」の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種23単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種31単位、高一種25単位となる。



「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」中一種8単位、高一種16単位に算入することができる。

※「道徳の指導法」について

「道徳の指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できますが、高等学校教諭免許状については「教職に関する科目」に算入できません。ただし、「教科又は教職に関する科目」に算入することができます。

「教職に関する科目」の他学部・他学科履修について

「教職に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時間に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科(教育学部を除く。)で開講される同一名称の「教職に関する科目」を履修することができます。

通常の履修登録方法とは異なりますので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

- ③教科又は教職に関する科目 「教科に関する科目」「教職に関する科目」のうち最低修得単位数を超えて修得した単位数および所定の「教科又は教職に関する科目」の単位数を合わせて、中一種は8単位以上、高一種は16単位以上修得しなければなりません。

管理栄養学科
生活環境デザイン学科

全学年共通

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用
	道徳の指導法	2	
中一種 8 単位	最低修得単位数(中一種・高一種とも20単位)を超えて修得した ①「教科に関する科目」		
高一種 16 単位	最低修得単位数(中一種31単位、高一種23単位)を超えて修得した ②「教職に関する科目」		

- ④その他の必修科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の科目区分について、各2単位以上修得する必要があります。

管理栄養学科

平成23年度以降入学生

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語1)	1	1	うち2科目 2単位以上 選択履修
		外国語(英語2)	1		
		外国語(英語3)	1		
		外国語(英語4)	1		
		外国語(ドイツ語1)			
		外国語(ドイツ語2)	1		
		外国語(フランス語1)	1		
		外国語(フランス語2)	1		
情報機器の操作	2	外国語(中国語1)	1	1	
		外国語(中国語2)	1		
情報機器の操作	2	コンピュータと情報	2		

管理栄養学科

平成22年度入学生

免許法施行規則に定める科目区分と単位数	単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語1)	1	1	うち2科目 2単位以上 選択履修
		外国語(英語2)	1		
		外国語(英語3)	1		
		外国語(英語4)	1		
		外国語(ドイツ語1)			
		外国語(ドイツ語2)	1		
		外国語(フランス語1)	1		
		外国語(フランス語2)	1		
情報機器の操作	2	外国語(中国語1)	1	1	
		外国語(中国語2)	1		
情報機器の操作	2	情報処理演習	1		
		コンピュータと情報	2		

全学年共通

免許法施行規則に定める 科目区分と単位数		本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語1)	1		} うち2科目 2単位以上 選択履修
		外国語(英語2)	1		
		外国語(英語3)	1		
		外国語(英語4)	1		
		外国語(ドイツ語1)		1	
		外国語(ドイツ語2)		1	
		外国語(フランス語1)		1	
		外国語(フランス語2)		1	
		外国語(中国語1)		1	
外国語(中国語2)		1			
情報機器の操作	2	コンピュータと情報	2		

2. 教職課程（栄養教諭）

1. 教職課程とは 大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
国際コミュニケーション学部	国際語コミュニケーション学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
	表現文化学科	中一種(国語)	高一種(国語)	
人間関係学部	人間関係学科	中一種(社会)	高一種(地歴)	高一種(公民)
	心理学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
文化情報学部	文化情報学科	高一種(情報)		
	メディア情報学科	高一種(情報)		
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(数学)
		中一種(音楽)	高一種(数学)	高一種(音楽)
看護学部	看護学科	養教一種		

2. 栄養教諭とは 児童生徒の望ましい食習慣の形成のため、平成17年度より栄養教諭課程を開設しています。栄養教諭は栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つ教諭として、学校給食等を生かした教材として活用した効果的な指導を行うことが期待されています。

栄養教諭の職務内容については、下記の(1)(2)に示します。

- (1) 食に関する指導
 - a) 偏食傾向や肥満傾向、食物アレルギーの児童生徒に対する個別的な指導・助言を行うカウンセラーとしての役割を果たす。
 - b) 学級担任や教科担任などと連携しつつ行う各教科・特別活動などにおける食に関する指導を行う。
 - c) 学校の内外を通じ、連携・協力を図るための食に関するコーディネーターとしての役割を果たす。
- (2) 学校給食の管理
 - a) 学校給食に関する基本計画の策定への参画をする。
 - b) 学校給食における栄養量および食品構成に配慮した献立の作成をする。
 - c) 学校給食の調理、配食および施設設備の使用方法などに関する指導・助言をする。
 - d) 調理員の衛生、施設設備および食品衛生の適正を期するための日常の点検およ

- び指導をする。(衛生管理面では安全で安心な学校給食の実施のために、「学校給食衛生管理の基準」を遵守し、衛生管理の責任者として充実強化が望まれている。)
- e) 学校給食の安全と食事内容の向上を期するための検食の実施および保存食の管理をする。
- f) 学校給食用物資の選定、購入および保管への参画をする。

食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することにより、高い相乗効果が期待されています。

3. 教員養成に対する理念

今日、わが国では、国際化、高度情報化、都市化、少子高齢化、核家族化が進展し、人々の価値観が多様化する中で、社会変化に適切に主体的に対応することができる子どもの育成、すなわち自分で課題を探求し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題解決しうる力と、自らを律し、他人と協調し、他人を思いやるといった豊かな人間性とを意味する「生きる力」を持った子どもの育成が教員に期待されています。

「生きる力」の育成に寄与できる教員の資質能力としては、1997年の教育職員養成審議会答申が述べたように、時代を超えて求められる一般的資質能力と現代社会において教員に求められる資質能力が考えられます。前者の資質能力としては、教育者としての使命感、子どもの成長・発達、学びについての理解、子どもに対する教育的愛情、教科に関する専門的知識と豊かな教養等が考えられ、後者の資質能力としては、地球の視野に立って行動する資質能力(地球、国家、人間等に関する適切な理解等)、変化の時代に生きる社会人に求められる資質能力(課題解決能力や社会変化に適応しうる知識、技能等)、及び教員の職務から必然的に求められる資質能力(子どもや学びに関する理解、教職に対する愛着等)が考えられます。換言すれば、対人関係能力、自己制御能力、課題解決能力、子どもの学び、発達、発達障害および教科についての見識、教職に対する使命感、教育愛および国際感覚を持った教員が今求められているということが言えます。

本学は、このような資質能力を持った教員の養成、すなわち、人間力と専門的能力を兼ね備えた教員の養成を目指しています。

4. 教職課程履修上の諸注意

《心構え》

教職課程を履修するうえで最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

《履修計画》

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学

年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

《各種手続き等について》

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（栄養教育実習の申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

5. 教職課程登録 手続き

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費を納入するとともに、教務課へ教職課程履修登録届を提出してください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

6. 教職課程で必 要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

《教職課程履修費》

課程の種類	対象学科	金額	納入時期
栄養教諭課程	管理栄養学科	12,000円	1年次4月

《実習費等》

実習等の種類	金額	納入時期
栄養教育実習	実習先指定額	実習時

《教育職員免許状発行手数料》

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

7. 教育職員免許 状取得に必要な基礎資格と 単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位数修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類	基礎資格	法令上の最低修得単位数		
		① 栄養に係る教育 に関する科目	② 教職に関 する科目	③ その他の 必修科目
栄養教諭 一種免許状	学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規定により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条1項の規定により栄養士の免許を受けていること。	4	18	8

8. 栄養教育実習

「栄養教育実習」は栄養教諭免許状取得のための必修科目です。栄養教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

栄養教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、栄養教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

＜教育実習の履修要件＞

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「栄養に係る教育に関する科目」「教職に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。
- ③ 「事前及び事後指導（栄養教諭）」を履修すること。
- ④ 教職課程履修上の各種手続きを遅滞なく済ませていること。

＜必要実習期間と履修登録科目＞

栄養教育実習の履修登録は、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、栄養教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（栄養教諭）（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
栄教一種免	小学校または中学校で1週間	事前及び事後指導（栄養教諭）（1単位） 栄養教育実習（1単位）

9. 履修カルテ 教職実践演習

〈履修カルテとは〉

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成22年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や、教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

〈履修カルテ作成項目〉

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●栄養に係る教育に関する科目 ●教職に関する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●栄養教育実習 ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

〈履修カルテ作成時期〉

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期合否発表開始日～指定日	後期合否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力に関する自己評価

《教職実践演習の履修要件》

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることが出来ませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

**10. 教員免許
更新制**

教育職員免許法の改正により、平成21年4月から教員免許更新制が導入されました。概要は以下のとおりです。

《新免許状（平成21年4月1日以降授与分）》

- ①平成21年4月1日以降に授与された免許状の有効期間は10年となります。
- ②更新講習修了確認期限までに更新講習を修了しなければ、免許状は失効します。
- ③更新講習を受講できるのは、現職教員（非常勤含む。以下同じ。）に限られます。
- ④いわゆるペーパーティーチャーの免許状は、更新講習を受講できないため、更新講習終了確認期限を過ぎると一旦失効します。ただし、失効後に教員採用試験に合格した場合や非常勤等での採用が予定されている場合は、就任時までに更新講習を修了すれば、免許状の再交付を受けることができます。

《更新講習》**①開設者**

- ・大学、指定教員養成機関、都道府県・指定都市教育委員会など

②講習時間（30時間）

- ・教育の最新事情に関する事項（12時間以上）
- ・教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（18時間以上）

③受講資格のある者

- ・現職教員、教員採用内定者、非常勤講師リスト掲載者 など

11. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続き等	備考
1 年次	4月上旬	教職課程履修登録ガイダンス	
	4月中旬	履修費納入・履修登録届の提出	
	7月上旬	履修カルテ作成ガイダンス	
3 年次	4月中旬	栄養教育実習内諾依頼ガイダンス	
	4月中旬～	栄養教育実習依頼手続き開始	
	12月中旬	栄養教育実習承認申請ガイダンス	
4 年次	4月下旬	栄養教育実習事前ガイダンス	
	4月～5月	前期栄養教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	5月～6月	前期栄養教育実習	実習日程は実習先により異なる
	7月	公立学校教員採用試験（1次）	日程は受験地により異なる
	8月	公立学校教員採用試験（2次）	日程は受験地により異なる
	8月～9月	後期栄養教育実習事前打ち合わせ会	実習校において実施
	9月～10月	後期栄養教育実習	実習日程は実習先により異なる
	実習終了後	栄養教育実習記録の提出	実習終了後1か月以内
	11月下旬	教育職員免許状一括申請ガイダンス	
3月末	栄養教諭免許状の交付	栄養士免許確認後に交付	

※スケジュールは現在の予定です。詳細はS*mapのジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

12. 教職課程カリキュラム表

① 栄養に係る教育に関する科目

「栄養に係る教育に関する科目」は、担当者として求められる栄養教育に関する知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。

栄養に係る教育に関する科目	科目に含める必要事項及び最低修得単位		本学の開設授業科目	単位数		備考
	科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養教育論	2		
	幼児、児童及び生徒の栄養にかかる課題に関する事項					
	食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養指導法	2		
	食に関する指導の方法に関する事項					

②教職に関する科目

「教職に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。

平成23年度以降入学生

	免許法施行規則に定める科目区分 及び最低修得単位数			本学の開設授業科目			備考
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	○印：教職必修科目	単位数	配当年次	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○教職論	2	1	
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	○教育本質論	2	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		○発達と学習	2	1	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育制度と社会	2	1	
	教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	4	○カリキュラム論	2	2	
		・道徳及び特別活動に関する内容		○道徳の指導法	2	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○特別活動の指導法	2	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4	○生徒指導	2	3	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○教育相談	2	3	
		栄養教育実習		2	○事前及び事後指導(栄養教諭) ○栄養教育実習	1 1	3・4 3・4
	教職実践演習		2	○教職実践演習(栄養教諭)	2	4	

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の最低修得単位数は18単位である。それに対し、上記の表より本学で修得しなければならない単位数は24単位となる。

	免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数		本学の開設授業科目			備考	
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	○印：教職必修科目	単位数		配当年次
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○教職論	2	1	
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	○教育本質論	2	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		○子どもの発達と学習	2	1	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育制度と社会	2	1	
	教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	4	○カリキュラム論	2	2	
		・道徳及び特別活動に関する内容		○道徳の指導法	2	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○特別活動の指導法	2	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4	○カリキュラム論	2	2	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○教育の方法と技術	2	2	
		生徒指導及び教育相談に関する科目		○生徒指導の研究	2	3	
			○教育相談の研究	2	3		
	栄養教育実習	2	○事前及び事後指導(栄養教諭)	1	3・4		
			○栄養教育実習	1	3・4		
	教職実践演習	2	○教職実践演習(栄養教諭)	2	4		

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の最低修得単位数は18単位である。それに対し、上記の表より本学で修得しなければならない単位数は24単位となる。

③その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の科目区分について、各2単位以上修得する必要があります。

平成23年度以降入学生

免許法施行規則に定める 科目区分と単位数		本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語1)	1	1	うち2科目 2単位以上 選択履修
		外国語(英語2)	1		
		外国語(英語3)	1		
		外国語(英語4)	1		
		外国語(ドイツ語1)			
		外国語(ドイツ語2)	1		
		外国語(フランス語1)	1		
		外国語(フランス語2)	1		
		外国語(中国語1)	1		
外国語(中国語2)	1				
情報機器の操作	2	コンピュータと情報	2		

平成22年度入学生

免許法施行規則に定める 科目区分と単位数		本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康運動の科学と実践	2		
外国語コミュニケーション	2	外国語(英語1)	1	1	うち2科目 2単位以上 選択履修
		外国語(英語2)	1		
		外国語(英語3)	1		
		外国語(英語4)	1		
		外国語(ドイツ語1)			
		外国語(ドイツ語2)	1		
		外国語(フランス語1)	1		
		外国語(フランス語2)	1		
		外国語(中国語1)	1		
外国語(中国語2)	1				
情報機器の操作	2	情報処理演習	1		
		コンピュータと情報	2		

3. 学芸員

1. 学芸員とは 学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門的職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。
近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について ①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格取得に関する科目を設けています。
②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
3. 「博物館実習」 ①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論*」「博物館経営論*」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を対象とします。
※平成22年度入学生・平成24年度3年次編入学生においては、それぞれ、「博物館学各論Ⅰ」、「博物館学各論Ⅱ」。
③「博物館実習」では、館務実習（事前・事後指導、見学、巡検、調査、実技、実務）のため学内実務実習・見学実習・学外実務実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
④学内実務実習は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また、毎回、各実習においてレポート課題があります。
4. ガイダンス 1年次後期（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
5. 履修費 25,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
※3年次4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格 (学則別表第8)

取得に関する <平成24年度以降入学生・平成25年度2年次編入学生適用>

科目

※○付数字は必修単位数

系列	最低必修単位数	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	備考
学芸員資格取得に関する科目	2	生涯学習概論	②	全学科	3・4	資格専門
	2	博物館概論	②	全学科	2・3	資格専門
	2	博物館経営論	②	全学科	2・3	資格専門
	2	博物館資料論	②	全学科	2・3	資格専門
	2	博物館資料保存論	②	全学科	2-4	資格専門
	2	博物館展示論	②	全学科	2-4	資格専門
	2	博物館教育論	②	全学科	2-4	資格専門
	2	博物館情報・メディア論	②	全学科	2-4	資格専門
	3	博物館実習	③	全学科	4	資格専門

(学則別表第8)

<平成23年度入学生・平成24年度2年次、平成25年度3年次編入学生適用>

※○付数字は必修単位数

系列	最低必修単位数	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	
学芸員資格取得に関する科目	必修 8系列 12単位以上	博物館概論	②	全学科	2・3	
		博物館経営論	②	全学科	2・3	
		博物館資料論	②	全学科	2・3	
		博物館情報論	②	全学科	2・3	
	教育学概論	②	管理栄養 生活環境デザイン	2-4		
	生涯学習概論	②	全学科	3・4		
	視聴覚教育 メディア論	②	全学科	2-4		
	博物館実習	③	全学科	4		
	文化史 美術史 民俗学 化学 物理 生物学	選択 2系列以上 8単位以上	服装史	2	生活環境デザイン	1
			西洋建築史	2	生活環境デザイン	2
日本建築史			2	生活環境デザイン	2	
インテリア史			2	生活環境デザイン	3	
—						
生化学Ⅰ			2	管理栄養	1	
有機化学の基礎			2	管理栄養	1	
食品分析学			2	管理栄養	1	
居住環境学Ⅰ			2	生活環境デザイン	1	
居住環境学Ⅱ			2	生活環境デザイン	2	
アパレル整理学			2	生活環境デザイン	2	
生活環境材料学			2	生活環境デザイン	1	
化学の世界			2	管理栄養 生活環境デザイン	1	
物理	骨組の力学	2	生活環境デザイン	2		
	アパレル素材学	2	生活環境デザイン	3		
生物学	生命の科学	2	管理栄養 生活環境デザイン	1		

※「教育本質論」は、学芸員資格取得の課程においては2年次の配当科目なので、1年次には履修することはできません。ただし、教職課程においては1年次の配当科目なので、教職課程履修者は1年次に履修可能です。

※選択科目のうち、他学部他学科開放科目から履修できる科目があります。その科目を履修し、修得した場合には選択科目として算入できます。ただし、その科目を卒業に必要な単位数に含めることはできません。詳細は履修登録期間に教務課までお問い合わせください。

資格関係

(学則別表第8)

<平成22年度入学生・平成24年度3年次編入学生適用>

※○付数字は必修単位数

系列	最低必修単位数	本学開講授業科目	単位数	適用学科	開講年次	
学芸員資格取得に関する科目	博物館概論	2	博物館概論	②	全学科	2・3
	博物館経営論	1	博物館学各論 I	②	全学科	2・3
	博物館資料論	2				
	博物館情報論	1	博物館学各論 II	②	全学科	2・3
	教育学概論	1	教育本質論	②	管理栄養 生活環境デザイン	2-4
	生涯学習概論	1	社会教育研究(生涯学習を含む。)	②	全学科	3・4
	視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育メディア論	②	全学科	2-4
	博物館実習	3	博物館実習	③	全学科	4
	文化史	選択 2系列以上 8単位以上	服装史	2	生活環境デザイン	1
	美術史		西洋建築史	2	生活環境デザイン	2
日本建築史			2	生活環境デザイン	2	
民俗学	インテリア史		2	生活環境デザイン	3	
	—					
化学	生化学 I		2	管理栄養	1	
	有機化学の基礎		2	管理栄養	1	
	食品分析学		2	管理栄養	1	
	居住環境学 I		2	生活環境デザイン	1	
	居住環境学 II		2	生活環境デザイン	2	
物理	アパレル整理学	2	生活環境デザイン	2		
	生活環境材料学	2	生活環境デザイン	1		
	化学の世界	2	管理栄養 生活環境デザイン	1		
生物学	骨組の力学	2	生活環境デザイン	2		
	アパレル素材学	2	生活環境デザイン	3		
生物学		生命の科学	2	管理栄養 生活環境デザイン	1	

※「教育本質論」は、学芸員資格取得の課程においては2年次の配当科目なので、1年次には履修することはできません。ただし、教職課程においては1年次の配当科目なので、教職課程履修者は1年次に履修可能です。

※選択科目のうち、他学部他学科開放科目から履修できる科目があります。その科目を履修し、修得した場合には選択科目として算入できます。ただし、その科目を卒業に必要な単位数に含めることはできません。詳細は履修登録期間に教務課までお問い合わせください。

4. 管理栄養士

管理栄養士学校指定規則等規定科目〔管理栄養学科〕（平成25・24年度入学生）

規則等規定科目		規則等規定単位		学 則 規 定 科 目	学則規定単位		備 考
		講義又 は演習	実験又 は実習		講義又 は演習	実験又 は実習	
専 門 基 礎 分 野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2		} 必修
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				公衆衛生学実習		1	
				社会福祉概論	2		
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	14		解剖生理学	2		} 必修
				解剖生理学実習		1	
				疾病の成り立ち	2		
				生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		1	
				臨床医学概論	2		
				臨床検査実習		1	
				微生物学	2		
				微生物学実験		1	
	運動生理学	2					
	食べ物と健康	8		食品学Ⅰ	2		} 必修
				食品学Ⅱ	2		
				食品学実験Ⅰ		1	
				食品学実験Ⅱ		1	
				食品学実習		1	
				食品衛生学	2		
食品衛生学実験				1			
調理学			2				
調理学実習		1					

資格関係

規則等規定科目		規則等規定単位		学 則 規 定 科 目	学則規定単位		備 考
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習	
専 門 分 野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2		} 必修
				栄養学実験		1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		} 必修
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				応用栄養学実習		1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2		} 必修
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養カウンセリング論	2		
				栄養教育論実習Ⅰ		1	
	臨床栄養学	8		栄養教育論実習Ⅱ		1	} 必修
				臨床栄養学	2		
				栄養アセスメント論	2		
				臨床検査学	2		
				栄養療法学	2		
				臨床栄養学実習Ⅰ		1	
	公衆栄養学	4		臨床栄養学実習Ⅱ		1	} 必修
				公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学Ⅱ	2		
	給食経営管理論	4		公衆栄養学実習		1	} 必修
給食経営管理論Ⅰ			2				
給食経営管理論Ⅱ			2				
総合演習	2	給食経営管理実習		1	} 必修		
		栄養総合演習	2				
		栄養実習事前・事後演習	1				
臨地実習		4	給食運営管理臨地実習		1	} 必修	
			臨床栄養学臨地実習		} 3		
			公衆栄養学臨地実習				

管理栄養士

厚生労働大臣の免許を受け、医療、保健、福祉や学校及び給食施設において、高度な専門的知識と技術により、状況に応じた栄養の改善と健康保持増進に必要な栄養指導を行います。

5. 栄 養 士

栄養士法施行規則等規定科目〔管理栄養学科〕（平成23年度入学生）

規則等規定科目		規則等規定単位		学 則 規 定 科 目	学則規定単位		備 考
		講義又 は演習	実験又 は実習		講義又 は演習	実験又 は実習	
専 門 基 礎 分 野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2		} 必修
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				公衆衛生学実習		1	
				社会福祉概論	2		
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	14		解剖生理学	2		} 必修
				解剖生理学実習		1	
				疾病の成り立ち	2		
				生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		1	
				臨床医学概論	2		
				臨床検査実習		1	
				微生物学	2		
				微生物学実験		1	
	運動生理学	2					
	食べ物と健康	8		食品学Ⅰ	2		} 必修
				食品学Ⅱ	2		
				食品学実験Ⅰ		1	
				食品学実験Ⅱ		1	
				食品学実習		1	
				食品衛生学	2		
食品衛生学実験				1			
調理学			2				
調理学実習		1					

資格関係

規則等規定科目		規則等規定単位		学則規定科目	学則規定単位		備考
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習	
専 門 分 野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2		} 必修
				栄養学実験		1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		} 必修
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				応用栄養学実習		1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2		} 必修
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養カウンセリング論	2		
				栄養教育論実習Ⅰ		1	
	臨床栄養学	8		栄養教育論実習Ⅱ		1	} 必修
				臨床栄養学	2		
				栄養アセスメント論	2		
				臨床検査学	2		
				栄養療法学	2		
				臨床栄養学実習Ⅰ		1	
	公衆栄養学	4		臨床栄養学実習Ⅱ		1	} 必修
				公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学Ⅱ	2		
	給食経営管理論	4		公衆栄養学実習		1	} 必修
給食経営管理論Ⅰ			2				
給食経営管理論Ⅱ			2				
総合演習	2	給食経営管理実習		1	} 必修		
		栄養総合演習	2				
		栄養実習事前・事後演習	1				
臨地実習		4	給食運営管理臨地実習		1	} 必修	
			臨床栄養学臨地実習		} 3		
			公衆栄養学臨地実習				

栄養士

栄養の専門家として、医療、保健、福祉、学校などの施設で、健康の改善および保持増進のための栄養指導などを担います。

栄養士法施行規則等規定科目〔管理栄養学科〕（平成22年度入学生）

規則等規定科目		規則等規定単位		学 則 規 定 科 目	学則規定単位		備 考
		講義又 は演習	実験又 は実習		講義又 は演習	実験又 は実習	
専 門 基 礎 分 野	社会・環境と健康	6	10	公 衆 衛 生 学	2		必修
				公 衆 衛 生 学 実 習		1	
				健 康 管 理 概 論	2		
				社 会 福 祉 概 論	2		
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	14		解 剖 生 理 学	2		必修
				解 剖 生 理 学 実 習		1	
				病 理 学	2		
				生 化 学 I	2		
				生 化 学 II	2		
				生 化 学 実 験		1	
				臨 床 医 学 概 論	2		
				臨 床 検 査 実 習		1	
				微 生 物 学 実 験		1	
				病 原 微 生 物 学	2		
	運 動 と 休 養 の 生 理 学	2					
	食べ物と健康	8		食 品 学 I	2		必修
				食 品 学 II	2		
				食 品 学 実 験 I		1	
				食 品 学 実 験 II		1	
食 品 学 実 習				1			
食 品 衛 生 学			2				
食 品 衛 生 学 実 験				1			
食 品 安 全 学			2				
食 品 機 能 学			2				
調 理 学			2				
調 理 学 実 習		1					

資格関係

規則等規定科目		規則等規定単位		学 則 規 定 科 目	学則規定単位		備 考
		講義又 は演習	実験又 は実習		講義又 は演習	実験又 は実習	
専 門 分 野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2		} 必修
				基礎栄養学Ⅱ	2		
				栄養学実験		1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		} 必修
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				応用栄養学実習		1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2		} 必修
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養カウンセリング論	2		
				栄養教育論実習Ⅰ		1	
				栄養教育論実習Ⅱ		1	
	臨床栄養学	8		臨床栄養学	2		} 必修
				栄養アセスメント論	2		
				臨床検査学	2		
				栄養療法学	2		
				臨床栄養学実習Ⅰ		1	
				臨床栄養学実習Ⅱ		1	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2		} 必修
				公衆栄養学Ⅱ	2		
公衆栄養学実習				1			
給食経営管理論	4	給食経営管理論Ⅰ	2		} 必修		
		給食経営管理論Ⅱ	2				
		給食経営管理実習		1			
総合演習	2	栄養総合演習	2		} 必修		
		栄養実習事前・事後演習	1				
臨地実習		4	給食運営管理臨地実習		1	} 必修	
			臨床栄養学臨地実習		} 3		
			公衆栄養学臨地実習				

栄養士

栄養の専門家として、医療、保健、福祉、学校などの施設で、健康の改善および保持増進のための栄養指導などを担います。

6. 食品衛生管理者・食品衛生監視員

履修科目〔管理栄養学科〕(平成25年度入学生)

		管理栄養学科	
		規定科目	単位数
A群 化学関係		有機化学の基礎	2
			計 2
B群 生物化学関係		生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ 解剖生理学 解剖生理学実習 栄養学実験 臨床検査実習 食品機能学 食品分析学	2
			2
			1
			2
			2
			1
			1
			2
			1
			1
			1
			2
			2
計 20			
C群 微生物学関係		微生物学 微生物学実験 食品学実習	2
			1
			1
計 4			
D群 公衆衛生学関係		公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ 食品衛生学 食品衛生学実験 公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2
			2
			2
			1
			2
			2
			1
			計 12
小計 (A + B + C + D)			38
E群 その他関連科目		疾病の成り立ち 基礎栄養学 統計解析入門演習	2
			2
			1
計 5			
合計 (A + B + C + D + E)			43

- ・ 法令上の必要条件：A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計で22単位以上かつ、E群の科目を含めて総単位数が40単位以上であること。
- ・ 本学においては、A群C群D群の全ての規定科目、B群の食品機能学を除く全ての規定科目及びE群の統計解析入門演習を除く全ての規定科目は必修とする。

食品衛生管理者（任用資格）

乳製品や食肉製品などを製造する施設が、その製造加工過程において食品衛生法や関連法規に違反しないよう管理・指導します。

食品衛生監視員（任用資格）

食品の安全確保のため、食中毒等に関する検査をはじめ衛生の監視・指導を行います。また、衛生教育の普及を推進します。

履修科目〔管理栄養学科〕（平成24・23年度入学生）

	管理栄養学科	
	規定科目	単位数
A群 化学関係	有機化学の基礎 食品分析学	2 2 計 4
B群 生物化学関係	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ 解剖生理学 解剖生理学実習 栄養学実験 臨床検査実習 食品機能学	2 2 1 2 2 1 1 2 1 1 1 2 計 18
C群 微生物学関係	微生物学 微生物学実験 食品学実習	2 1 1 計 4
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ 食品衛生学 食品衛生学実験 公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2 2 2 1 2 2 1 計 12
		小計（A+B+C+D） 38
E群 その他関連科目	運動生理学 疾病の成り立ち 基礎栄養学 栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養アセスメント論 臨床栄養学 給食経営管理論Ⅰ 調理学 統計解析入門演習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 計 19
		合計（A+B+C+D+E） 57

- ・法令上の必要条件：A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計で22単位以上かつ、E群の科目を含めて総単位数が40単位以上であること。
- ・本学においては、B群からD群までの全ての規定科目及びE群の統計解析入門演習を除く全ての規定科目は必修とする。また、A群の有機化学の基礎もしくは食品分析学のいずれかは必ず履修すること。

食品衛生管理者（任用資格）

乳製品や食肉製品などを製造する施設が、その製造加工過程において食品衛生法や関連法規に違反しないよう管理・指導します。

食品衛生監視員（任用資格）

食品の安全確保のため、食中毒等に関する検査をはじめ衛生の監視・指導を行います。また、衛生教育の普及を推進します。

履修科目〔管理栄養学科〕（平成22年度入学生）

	管理栄養学科	
	規定科目	単位数
A群 化学関係	有機化学の基礎	2
	食品分析学	2
	計	4
B群 生物化学関係	生化学Ⅰ	2
	生化学Ⅱ	2
	生化学実験	1
	食品学Ⅰ	2
	食品学Ⅱ	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	解剖生理学	2
	解剖生理学実習	1
	栄養学実験	1
	臨床検査実習	1
	食品機能学	2
計	18	
C群 微生物学関係	病原微生物学	2
	微生物学実験	1
	食品学実習	1
計	4	
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	2
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	公衆栄養学Ⅰ	2
	公衆栄養学Ⅱ	2
	公衆栄養学実習	1
	健康管理概論	2
計	12	
小計（A+B+C+D）		38
E群 その他関連科目	運動と休養の生理学	2
	病理学	2
	基礎栄養学Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養アセスメント論	2
	臨床栄養学	2
	給食経営管理論Ⅰ	2
	調理学	2
	情報処理演習	1
計	19	
合計（A+B+C+D+E）		57

- ・法令上の必要条件：A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計で22単位以上かつ、E群の科目を含めて総単位数が40単位以上であること。
- ・本学においては、B群からD群までの全ての規定科目及びE群の情報処理演習を除く全ての規定科目は必修とする。また、A群の有機化学の基礎もしくは食品分析学のいずれかは必ず履修すること。

食品衛生管理者（任用資格）

乳製品や食肉製品などを製造する施設が、その製造加工過程において食品衛生法や関連法規に違反しないよう管理・指導します。

食品衛生監視員（任用資格）

食品の安全確保のため、食中毒等に関する検査をはじめ衛生の監視・指導を行います。また、衛生教育の普及を推進します。

7. 1級テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）

授業科目〔生活環境デザイン学科〕（平成24年度以降入学生）

グループ		協会の指定科目	単位数	本学の開講科目	単位数
材 料	A	被服繊維学	2	繊維材料学	2
		被服材料学	2	アパレル素材学	2
		繊維学実験Ⅰ	1	繊維材料学実験Ⅰ	1
		材料学実験Ⅰ	1	アパレル素材学実験	※2(1)
	B	繊維学実験Ⅱ	1	繊維材料学実験Ⅱ	1
		材料学実験Ⅱ	1	アパレル素材学実験	※2(1)
		機能材料学	2	機能材料学	2
		テキスタイル基礎科学	2	生活環境材料学	2
		インテリア繊維製品	2	インテリア素材論	2
加 工 ・ 整 理	A	被服整理学	2	アパレル整理学	2
		染色加工学	2	染色加工学	2
		被服整理学実験	1	アパレル整理学実験	1
	B	染色加工学実験	1	アパレル染色学実験	1
		繊維加工学	2	繊維加工学	2
企 画 ・ 設 計 ・ 生 産	A	アパレル企画論	2	アパレル企画論	2
		アパレル設計論	2	アパレル造形論	2
		アパレル設計実習	1	アパレル造形実習	1
		アパレル生産実習	1	アパレル生産実習	2
		アパレル生理衛生論	2	アパレル環境学	2
	B	アパレル生産論	2	アパレル設計・生産論	2
		アパレルデザイン論	2	アパレルデザイン論	2
		アパレルデザイン表現実習	1	ファッションドローイング	1
		アパレルCAD実習	1	アパレルCADⅡ（パターン）	1
		色彩学	2	アパレル色彩学	2
		色彩実習	1	アパレル色彩学実験	1
		アパレルグラフィック実習	1	アパレルCADⅠ（テキスタイル）	1
		流 通 ・ 消 費	A	消費科学	2
消費生活論	2			消費生活論	2
テキスタイルアドバイザー実習	1			テキスタイルアドバイザー実習	1
B	ファッションビジネス論		2	ファッションビジネス論	2
	生活行動論		2	人間と行動	2
	マーケティング論		2	マーケティング論	2
	消費者調査法		1	社会調査法	2
	消費者経済学		2	生活経済学概論	2
	被服心理学		2	アパレル着装心理学(演習を含む。)	2

A：必修科目（24単位）、B：自由選択科目（19単位以上選択必修）

※協会の指定科目（A）「材料学実験Ⅰ」（1単位）、（B）「材料学実験Ⅱ」（1単位）の2科目は、本学の開講科目「アパレル素材学実験」（2単位）で読み替える。

一級テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）

アパレル製品・業界についての幅広い知識を持ち、企業と消費者のパイプ役を担う資格が得られます。

授業科目〔生活環境デザイン学科〕（平成23・22年度入学生）

グループ	協会の指定科目	単位数	本学の開講科目	単位数	
材 料	A	被服繊維学	2	繊維材料学	2
		被服材料学	2	アパレル素材学	2
		繊維学実験Ⅰ	1	繊維材料学実験Ⅰ	1
		繊維学実験Ⅱ	1	繊維材料学実験Ⅱ	1
		材料学実験Ⅰ	1	アパレル素材学実験	2
		材料学実験Ⅱ	1		
	B	高分子化学	2	生活環境材料学	2
		インテリア繊維製品	2	インテリア素材論	2
加 工 ・ 整 理	A	被服整理学	2	アパレル整理学	2
		染色加工学	2	染色加工学	2
		被服整理学実験	1	アパレル整理学実験	1
		染色加工学実験	1	アパレル染色学実験	1
	B	繊維加工論	2	繊維加工学	2
企 画 ・ 造 形	A	アパレル企画論	2	アパレル企画論	2
		アパレルデザイン論	2	アパレルデザイン論	2
		アパレル設計・生産論	2	アパレル設計・生産論	2
		アパレル生産実習Ⅰ	1	アパレル生産実習	2
		アパレル生産実習Ⅱ	1		
	B	アパレルデザイン表現演習	1	ファッションドローイング	1
		アパレルCAD演習	1	アパレルCADⅡ（パターン）	1
		被服造形科学	2	アパレル造形論	2
		色彩学	2	アパレル色彩学	2
		テキスタイルデザイン演習	1	アパレルCADⅠ（テキスタイル）	1
衣環境学実験	1	アパレル人間工学実験	1		
流 通 ・ 消 費 ・ 環 境	A	消費科学	2	アパレル消費科学	2
		消費生活論	2	消費生活論	2
		テキスタイルアドバイザー実習	1	テキスタイルアドバイザー実習	1
		衣環境学	2	アパレル環境学	2
		ファッションビジネス論	2	ファッションビジネス論	2
		マーケティング論	2	マーケティング論	2
		B	被服心理学	2	アパレル着装心理学（演習を含む。）
	統計学		2	社会調査法	2

A：必修科目（33単位）、B：自由選択科目（10単位以上選択必修）

一級テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）

アパレル製品・業界についての幅広い知識を持ち、企業と消費者のパイプ役を担う資格が得られます。

8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー

授業科目〔生活環境デザイン学科〕(平成22年度以降入学生)

	指定科目の分類及び必要単位数		指定科目として申請する開講科目	
	二級建築士・木造建築士	一級建築士	科目名	開設単位数
(a)	①建築設計製図 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	基礎製図	2
			建築・インテリア実習Ⅰ	2
			建築・インテリア実習Ⅱ	2
			インテリア実習Ⅰ	2
			インテリア実習Ⅱ	2
			建築設計実習Ⅰ	2
			建築設計実習Ⅱ	2
			建築設計実習Ⅲ	2
	②～④建築計画、建築環境 工学又は建築設備 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	空間計画基礎論	2
			住宅計画	2
			福祉環境論	2
			西洋建築史	2
			日本建築史	2
			色彩計画・照明計画	2
			空間設計論Ⅱ	2
			インテリアデザイン論	2
			都市計画	2
			建築計画及びデザイン	2
			建築設計論Ⅰ	2
			建築設計論Ⅱ	2
③建築環境工学 (2単位以上)	③建築環境工学 (2単位以上)	環境と生理	2	
		居住環境学Ⅰ	2	
		居住環境学Ⅱ	2	
		居住環境学実験	1	
		居住環境・設備学演習	1	
④建築設備 (2単位以上)	④建築設備 (2単位以上)	生活環境と設備	2	
		建築設備学	2	
⑤～⑦構造力学、建築一般 構造又は建築材料 (6単位以上)	⑤構造力学(4単位以上)	骨組の力学	2	
		骨組の力学演習	1	
		骨組の解析	2	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築一般架構	2
			構法計画及び木構造	2
			鋼構造	2
			鉄筋コンクリート構造	2
	⑦建築材料 (2単位以上)	⑦建築材料 (2単位以上)	生活環境材料学	2
			インテリア素材論	2
			建築材料	2
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	架構材料実験	1	
		建築施工・積算	2	
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	2	
(a)小計	20単位以上	30単位以上		

指定科目の分類及び必要単位数		指定科目として申請する開講科目		
	二級建築士・木造建築士	一級建築士		
	⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	科目名	
(b)			生活環境デザイン	2
			人間と行動	2
			環境心理学	2
			感性デザイン論	2
			生活環境デザイン演習	1
			デザイン演習Ⅰ(造形基礎)	1
			デザイン演習Ⅱ(パース)	1
			空間CAD演習Ⅰ	1
			空間CAD演習Ⅱ	1
			空間CAD演習Ⅲ	1
			空間設計論Ⅰ	2
測量学及び実習	2			
(b)小計	適宜	適宜		
(a)+(b)	40単位以上	60単位以上		

※一級建築士の受験資格取得には、この課程の必修単位数を在学中に修得することに加えて、卒業後2年間の実務経験が必要です。

※二級建築士および木造建築士の受験資格取得には、この課程の必修単位数を在学中に修得することが必要です（実務経験不要）。

※建築士免許取得者は、インテリアプランナー資格試験合格後に登録資格として必要な実務経験が免除されます。なお、インテリアプランナーの登録資格取得は、「9. インテリアプランナー」に示す方法でも可能です。

一級・二級建築士（受験資格）

建築士法で定められた範囲内の建築物の設計、工事監理にあたります。学科試験と実技試験に合格すると資格を取得できます。一級は実務経験2年により受験資格取得。二級は卒業と同時に受験可能。

木造建築士（受験資格）

建築士法で定められた範囲内で、木造建築物の設計・工事監理にあたります。卒業と同時に受験可能です。

インテリアプランナー

インテリアの企画・設計から工事監理までを担当。各種建築物の内装総監督としての業務を担当。

9. インテリアプランナー

授業科目〔生活環境デザイン学科〕(平成22年度以降入学生)

授 業 科 目	開設単位数	必修単位数
歴史	2	A (36-B-C) 単位以上
生活環境デザイン演習	1	
色彩と造形	2	
デッサン	1	
西洋建築史	2	
日本建築史	2	
インテリア史	2	
都市計画	2	
人間と行動	2	
感性デザイン論	2	
感性デザイン実習	1	
クラフト演習(編み・織り・陶芸)	1	
プロダクト制作実習Ⅲ(生活用品)	1	
福祉環境論	2	
環境と生理	2	B (24-C) 単位以上
住宅計画	2	
身体と人間工学	2	
環境心理学	2	
色彩計画・照明計画	2	
生活環境材料学	2	
インテリア素材論	2	
デザイン演習Ⅰ(造形基礎)	1	
デザイン演習Ⅱ(パース)	1	
デザイン演習Ⅲ(テキスタイル)	1	
デザイン演習Ⅳ(バラエティー)	1	
空間計画基礎論	2	
建築法規	2	
建築一般架構	2	
建築材料	2	
骨組の力学	2	
居住環境学Ⅰ	2	
居住環境学Ⅱ	2	
建築設備学	2	
基礎製図	2	
空間CAD演習Ⅰ	1	
空間CAD演習Ⅱ	1	
空間CAD演習Ⅲ	1	
空間設計論Ⅰ	2	
空間設計論Ⅱ	2	
インテリアデザイン論	2	

資格関係

授 業 科 目	開設単位数	必修単位数	
プロダクトデザイン論Ⅰ(各種材料と加工法)	2		
プロダクトデザイン論Ⅱ(生産造形)	2		
インテリア設計論	2		
インテリアの構成と材料	2		
プロダクト制作実習Ⅰ(各種材料と加工法)	1		
プロダクト制作実習Ⅱ(照明)	1		
プロダクト制作実習Ⅳ(家具)	2		
構法計画及び木構造	2		
鋼構造	2		
建築計画及びデザイン	2		
骨組の解析	2		
鉄筋コンクリート構造	2		
架構材料実験	1		
建築施工・積算	2		
居住環境学実験	1		
居住環境・設備学演習	1		
建築設計論Ⅰ	2		
建築設計論Ⅱ	2		
建築・インテリア実習Ⅰ	2		C 2単位以上
建築・インテリア実習Ⅱ	2		
インテリア実習Ⅰ	2		
インテリア実習Ⅱ	2		
建築設計実習Ⅰ	2		
建築設計実習Ⅱ	2		

※インテリアプランナー試験合格後に必要な実務経験をつんだ者には登録資格が与えられます。

※インテリアプランナーの登録資格には、卒業後2年間の実務経験が必要です。なお、この必修単位数を修得しなかった場合は卒業後6年間の実務経験が必要です。

※インテリアプランナーの登録資格取得は、「8. 一級および二級建築士等・インテリアプランナー」に示す方法でも可能です。

(備考)

単位修得についてはC→B→Aという順番で計算することが出来ます。参考にしてください。

- ① 「C」から最低2単位以上修得してください。
- ② 「B」+「C」 \geq 24単位修得してください。
- ③ 「A」+「B」+「C」 \geq 36単位修得してください。

注意！「B」+「C」 \geq 24の場合、「A」の修得単位数は少なくなります。

例) 極端な履修方法をすれば「B」+「C」 \geq 36の場合、「A」の修得単位数は0単位となりますが、実際に単位修得する場合には、①、②、③を満たしたうえで出来るだけ満遍なく単位修得するように心がけてください。

インテリアプランナー

インテリアの企画・設計から工事監理までを担当。各種建築物の内装総監督としての業務を担当。インテリアプランナー試験に合格し、かつ、卒業後2年間の実務経験をつんだものは登録資格が得られます。

10. 商業施設士

授業科目〔生活環境デザイン学科〕（平成22年度以降入学生）

	授 業 科 目	開設単位数	必修単位数
商 業 一 般	経済	2	4
	生活経済学概論	2	
	ファッションビジネス論	2	
	環境心理学	2	
	マーケティング論	2	
	消費生活論	2	
	社会調査法	2	
商 業 施 設 構 成 計 画	空間計画基礎論	2	10
	インテリアデザイン論	2	
	感性デザイン論	2	
	色彩計画・照明計画	2	
	建築法規	2	
	プロダクトデザイン論Ⅰ（各種材料と加工法）	2	
	プロダクトデザイン論Ⅱ（生産造形）	2	
	インテリア設計論	2	
	インテリアの構成と材料	2	
	デザイン演習Ⅰ（造形基礎）	1	
	デザイン演習Ⅱ（パース）	1	
	デザイン演習Ⅲ（テキストスタイル）	1	
	デザイン演習Ⅳ（バラエティー）	1	
工 事 監 理 ・ 施 工 建 築 一 般 及 び	西洋建築史	2	4
	日本建築史	2	
	インテリア史	2	
	インテリア素材論	2	
	建築材料	2	
	構法計画及び木構造	2	
	鋼構造	2	
	建築一般架構	2	
	建築施工・積算	2	
	建築設備学	2	
	デッサン	1	
生活環境デザイン演習	1		
空間CAD演習Ⅰ	1		
空間CAD演習Ⅱ	1		
空間CAD演習Ⅲ	1		
基礎製図	2		
建築・インテリア実習Ⅰ	2		
インテリア実習Ⅰ	2		
インテリア実習Ⅱ	2		
プロダクト制作実習Ⅰ（各種材料と加工法）	1		
プロダクト制作実習Ⅱ（照明）	1		
プロダクト制作実習Ⅲ（生活用品）	1		
プロダクト制作実習Ⅳ（家具）	2		

資格関係

授 業 科 目		開設単位数	必修単位数
	感性デザイン実習	1	
	生活環境特別実習Ⅰ	1	
	生活環境特別実習Ⅱ	1	
	生活環境特別実習Ⅲ	1	
	建築設計実習Ⅱ	2	

商業施設士（受験資格）

百貨店やショップ、レストラン、展示場などの商業施設のイメージ構成企画。ディスプレイの設計、工事監理などを担当。本学では単位修得により学科試験免除。3年次に商業施設士補を取得可能、4年次で商業施設士の受験が可能。

11. 建築積算士

授業科目〔生活環境デザイン学科〕（平成22年度以降入学生）

授 業 科 目	開設単位数	必修単位数
建築施工・積算	2	2

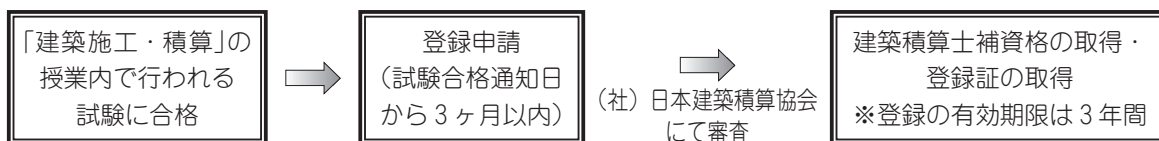
建築積算士

建築物の設計図書等に基づき、建築数量積算基準等を駆使し、適正な積算技術により数量調書の作成や工事費の算定を担当できる資格。

本学では「建築施工・積算」の単位を修得、その授業内で行われる建築積算士補の試験に合格し下記のとおり登録申請をすることにより、建築積算士補を取得可能。建築積算士補の取得により建築積算士の一次試験が免除される。

1. 建築積算士補の登録の流れ

建築積算士補試験合格後、各自で建築積算士補資格の登録申請をすることが必要です。



2. 建築積算士補の更新登録の流れ

3年ごとに有効期間満了前に更新講習を修了することにより、登録の更新ができます。

登録の更新をすることにより、建築積算における新知識の獲得、積算技術のレベルアップをすることができます。



※ 登録についての詳細は（社）日本建築積算協会に問い合わせること。

12. インターンシップ

1. インターンシップとは
 インターンシップとは、将来適切な職業選択をする上での知識や考え方を学び、大学で身に付けた知識・研究テーマを深めるために、企業や自治体で実際に就業の体験をすることです。
 本学では、夏季及び春季休業中に企業・官公庁・各種団体で2週間から1ヶ月の実習を行い、条件が満たされた場合は単位認定されます。
2. 科目名
 以下の2科目を設けますが、卒業要件の単位には含めることができません。評価はS～Dの5段階です。
 (学則別表第8-8)
- | 科目区分 | 授業科目 | 単位数 |
|----------------|-----------|-----|
| インターンシップに関する科目 | インターンシップⅠ | 1 |
| | インターンシップⅡ | 1 |
3. 単位認定の対象
- 対象実習先
 - ①本学インターンシップ委員会が開拓した実習先
 - ②大学が会員になっている団体の提供する実習先（夏期）
 - ※東海地域インターンシップ推進協議会
 - 岐阜県インターンシップ推進協議会 等
 - ③官公庁
 - ④学生が独自に開拓した実習先(ただし、本学インターンシップ委員会が適当と認めたもの)
 - 対象要件
 - ①期間は2週間を標準とし、2週間以下でも本学インターンシップ委員会が適当と認めたもの(実習期間は夏季休業期間、春季休業期間のみとする)
 - ②実習内容が本学インターンシップ委員会で適当と評価されたもの
 - ③大学、実習先、(学生)の二者(三者)間で覚書を取り交わしているもの
 - 対象学生
 - 2年生以上を対象とします。ただし、4年生の後期は、評価の都合上対象となりません。
 - ※「インターンシップⅠ」・「インターンシップⅡ」の区分など、詳細はガイダンスの際に説明します。
4. ガイダンス
 前期(夏期インターンシップ)のガイダンスを4月、後期(春期インターンシップ)のガイダンスを11月に実施します。ガイダンスに出席しない学生は履修できません。
5. 履修登録
 実習先が確定した際に大学側で登録を行いますので、前期・後期開始時の履修登録の際に、登録の必要はありません。また、年度の履修登録制限には含みません。評価が出る時期は、前期(夏期インターンシップ)については12月、後期(春期インターンシップ)については7月の予定です。
6. 履修費
 3,500円(実習先が確定した際に納入)

13. 安全教育に関する科目 安全学（自然災害）

1. 安全学（自然災害）とは

私たちが安心して生活していくためには、私たちの身の回りで発生する様々な災害や危険から身を守っていかなければなりません。これらの災害や危険のうち、特に近い将来発生するであろうと言われている南海トラフ大地震など大規模な自然災害を想定し、災害に対する科学的な知識を得るとともに、常に防災意識を持ち、災害時に的確な判断と適切な行動ができる能力を身につけることを目指して「安全学(自然災害)」を開講します。

この科目は、本学の各専門分野の教員や減災、気象、自治体、NPOなどの専門家がオムニバス形式により様々な角度から授業を行います。

2. 科目名

安全教育に関する科目

科目区分	授業科目	単位数
安全教育に関する科目	安全学（自然災害）	2

3. 授業形態

授業は、より実践的な能力を身につけることができるようにするため、講義だけでなく、演習や実習など多様な授業方法により行います。

また、「キャンパス間双方向授業システム」を利用して星が丘キャンパスと日進キャンパスをネットワークでつなぎ、リアルタイムで教員と学生、学生同士がディスカッションや課題研究に取り組みながら授業を展開し、学生自身が積極的、能動的に学習していきます。

授業は原則、前期の隔週土曜日に2～3時間連続で行います。

4. 単位認定の対象

単位認定は、下記により認定します。

学部	学科	単位認定
生活科学部	管理栄養学科	卒業要件の単位には含めない。
	生活環境デザイン学科	自由選択科目の単位とする。
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科	自由選択科目の単位とする。
	表現文化学科	自由選択科目の単位とする。
人間関係学部	人間関係学科	自由選択科目の単位とする。
	心理学科	自由選択科目の単位とする。
文化情報学部	文化情報学科	自由選択科目の単位とする。
	メディア情報学科	自由選択科目の単位とする。
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	卒業要件の単位には含めない。
教育学部	子ども発達学科	自由選択科目の単位とする。

※看護学部の学生は、受講（聴講）はできますが、単位は認定されません。